

リアホナ

皆の思いをイエス・キリストへ



キリストの
もとに来なさい

福音の基本

わたしたちに救い主が必要な理由

6ページ

キリストのもとに向かう道を進む

試練のときに恐れてはなりません

8ページ



ウルグアイ、 ピリアポリス

エルサ・カスティヨ・デ・アイカルディは、よく自宅近くのビーチを孫と一緒に散歩します。この写真には、ウルグアイのだれもが愛してやまない3つのもの、すなわち家族とサッカーとビーチがあります。ウルグアイの多くの家庭では、祖父母が孫の世話を手伝います。ウルグアイにおける教会の現状は次のとおりです：



会員数 10 万 7,103



ワード／支部 134



伝道部 2, 神殿 1

子供を養い育てる

首都モンテビデオで、アンドレア・ロドリゲスは幼い娘の世話をし、夫のマルコス・ソルマニはほかの子供たちと遊びます。「親には子供を養い育てるという神聖な責任があると、生ける預言者は教えています」と、アンドレアは言います。





「心配することはない。これらすべてのことが起こるとき、あなたがたは、与えられた約束が果たされることが分かるからである。」

救い主の約束を信じる

わたしたちはだれでも、人生で困難に遭います。小さい一時的なものもあれば、重大で長く続くものもあります。そうした困難の中で、キリストのような友人は、わたしたちが愛され強められていると感じられるよう助けてくれます。

32 ページでは、わたしの親友の一人であるヘザーを皆さんにご紹介します。数十年の交友の中で、ヘザーは愛をもってわたしを励ましてくれています。際立った信仰を持つ女性で、脳性まひによる日々の苦労といった現世の困難によって希望をくじかれたり、善い行いを思いとどまったりしない人です。何らかの身体的障害があるという診断をものともせず、神の王国を力強く築くことができる兄弟姉妹はたくさんおり、ヘザーもその一人です。

わたしはヘザーが救い主の約束を信じていると証するのを何度も聞いてきました。そのメッセージは、この復活祭の時季には特に胸に響くように思えます。この時季、わたしたちはイエス・キリストのおかげでどのようなことが可能になっているか、立ち止まって深く考えたくなります。キリストの愛には、わたしたちの苦労を、前進するための足場に変える力があります。主は贖罪をなされたために、理解できない苦痛や病気、能力の限界がありません。イエス・キリストは、完全な癒しを与えてくださいます。これこそ、わたしたちが復活祭で祝う喜びです。

愛を込めて、

Marissa

福音実践アプリ編集長主幹補佐

マリッサ・ウィディソン



「世の思い煩いによって神に従うことから注意をそらされてはなりません。」

一七九人 ハンス・
T・ブーム長老、
18 ページ

特集

末日聖徒イエス・
キリスト教会の
公式機関誌
リアホナ
2021 年 4 月号
第 45 巻 4 号
(17467 300)

表紙



「信仰の完成者」
J・アラン・バレット画

目次

- 6 福音の基本
イエス・キリストはわたしたちを罪と死から救ってくださった
- 8 キリストの完全を追い求める
ジェフリー・R・ホランド長老
この復活祭の時に、イエス・キリストのもとに向かう道を進み、主の平安を経験しましょう。
- 12 末日聖徒の声
世界各地の会員から届いた信仰の物語。
- 16 インクルージョン
独身者を独りにしないために
ジェイコブ・コール
- 22 救い主とサタン—際立った相違点
キャスリン・トーマス
キリストとサタンとの違いが分かると、救い主の愛に感謝するようになります。
- 30 ミニスタリングの原則
障害がある人々へのミニスタリング
- 32 あらゆる能力のレベルにおける信仰
マリッサ・ウィディソン
だれもが独自の能力によって神の王国を築くのをお手伝いすることができます。
- 36 信仰をもって歳を重ねる
人を大切にしながら、自分も大切にする
奥村幸治
- 38 親のために
イエス・キリストによって打ち勝つことについて教える
- 40 今日の変化する世における忠実な子育て
デニス・ダンロップ
両親が子供たちを導くのに役立つ、福音に基づく 3 つのアイデア

大管長会：ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会：M・ラッセル・バラード、ジェフリー・R・ホランド、ディーター・F・ワークトドルフ、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン、ロナルド・A・ラスバンド、ゲーリー・E・スティープソン、テール・G・レンランド、ゲレット・W・ゴンガ、ウリセス・ソアレス

編集長：ランディー・D・ファンク

顧問：マルコス・A・アイトカイトス、ミッシェル・D・

クレーク、ベッキー・クレブソン、シャロン・ユーバンク、クリスティアナ・B・フランコ、ウォルター・F・ゴンザレス、ジェレミー・R・ジャギ、ジャン・E・ニューマン、アドリアン・オチョア、マイケル・T・リングウッド、ブラッドリー・R・ウィルコックス

実務運営ディレクター：リチャード・I・ヒートン

教会機関誌ディレクター：アーロン・ジョンストン

ビジネスマネージャー：ガーフ・キャノン

編集主幹：アダム・C・オルソン

編集主幹補佐：ライアン・カー、C・マシュー・フリットン、ミンディ・セル

出版補佐：エニッシュ・C・ダビラ

編集委員：ギャレット・H・ガーフ、チャケル・ワードリー、ハーバート、マイケル・R・モリス、リチャード・M・ロムニー、マーガレット・ウィリス

編集インターン：エミリー・エーベル、オーブリー・バリー

アートディレクター：タッド・R・ピーターソン

デザイン：フェイ・P・アンドラス、ジョシュア・デニス、デビッド・グリーン、コリー・ヒンクレー、エリック・P・ジョンソン、スーザン・ロフグレン、スコット・M・ムーイ、アレニ・レガ

デザインインターン：ベッツィー・ピーターソン、ヘイリー・ワグナー

版権および許諾コーディネーター：コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹：アンモン・ハリス

制作：アイラ・グレン・アデア、ジュリー・バーデット、ホセ・チャベス、ブライアン・W・ギューギ、ギニー・J・ニルソン、マリッサ・M・スミス

製版：ジョシュア・デニス

印刷ディレクター：スティープソン・T・ルイス

配送ディレクター：ネルソン・ゴンザレス

日本語版翻訳課長：大森陽子

●定期購読は、末日聖徒イエス・キリスト教会公式オンラインストアにてお申し込みください。 <https://store.churchofjesuschrist.org/jpn/ja>

「わたしに従ってきなさい」

18 世の思い煩いに打ち勝つ

ハンス・F・ブーム長老

人生で天の御父を第一にする人には祝福が待っています。

25 回復の初期の女性たち

ジェーンは喜びを感じながら旅をした

ジェーン・マニング・ジェームズの生涯における注目すべき出来事。

26 教義と聖約 30 – 44 章

教義と聖約の研究を週ごとにサポートする記事。

ヤングアダルト

42 愛する人々が教会を離れるときに強く あり続ける

フレデリック・ヘグナー・オドゴール

弟が教会から離れたときにわたしが学んだこと。

46 伝道活動に関する靈感に基づく変更が わたしの家族に祝福をもたらしました

ララ・アグスティーナ・チャベス

天の御父はわたしたちの祈りを聞いてくださり、わたしたちが福音を分かち合えるように助けてくださいます。

48 もっとあなたに！

今月、ほかにどんなヤングアダルト向けのデジタル記事があるか見てみましょう。

地域のページ

お住まいの地域に関連する教会の記事は、『リアホナ』の中央に差し込まれています。ぜひ御覧ください。

デジタル版のみに掲載される記事

これらの記事は「福音ライブラリー」内の今月号に掲載されています：

介護しているなら、自分自身のケアも忘 れずに

奥村幸治

36 ページの記事の長文版。

総大会がわたしの改心を与えた影響

エイミー・フォスター

初期の聖徒から学ぶ：世の思い煩いを 脇へやる

マシュー・ゴッドフリー

もっとつながる

オーディオ版、デジタル版、印刷可能フォーマット版の機関誌については、liahona.ChurchofJesusChrist.org を御覧ください。質問、意見、経験を分かち合える投稿ページもあります。

または、liahona@ChurchofJesusChrist.org まで電子メールでお送りいただくか、以下に郵送してください。
Liahona, floor 23
50 E. North Temple Street
Salt Lake City, UT 84150-0023, USA



発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-8-8

価格 年間購読（国内）『リアホナ』1,090 円、『フレンド』870 円、『For the Strength of Youth—青少年の強さのために』870 円（すべて送料込み）

海外在住の方はお近くのディストリビューションセンターへのお申し込みをお勧めします。

郵便宛先：Liahona, Fl. 23, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0023, USA.

『リアホナ』（モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意）は、以下の言語で出版されています。アルバニア語、アルメニア語、ビスマラ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語、中国語（簡体字）、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリ

シャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、マダガスカル語、マーシャル語、モンゴル語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア語、スペイン語、スウェーデン語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語（発行頻度は言語により異なります。）

© 2021 by Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷：韓国

著作権情報：別途記載がない限り、『リアホナ』に掲載されているものは、個人的に、また非営利目的（教会の召しも含む）で使用する場合に複製することができます。この指示内容は変更の可能性が常にあります。複製資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Fl. 5, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メールで cor-intellectualproperty@ChurchofJesusChrist.org にご送付ください。

For Readers in the United States and Canada: April 2021 Vol. 45 No. 4. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.ChurchofJesusChrist.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 507.1.5.2). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

イエス・キリストはわたしたちを罪と死から救ってくださった

キリストの犠牲のおかげで、だれもが永遠の平安と喜びを見いだす機会を得ています。



わたしたちはイエス・キリストを救い主と呼んでいます。それは、キリストがわたしたちの罪の代価を払い、死の力に打ち勝たれたからです。主はわたしたちを救ってくださったのです。主がわたしたちのために払ってくださった犠牲は、贖罪と呼ばれ、これまでに起こった中で最も重要な出来事です。イエスのおかげで、死がすべての終わりではなくなりました。イエスのおかげで、わたしたちは罪を赦されて再び清くなり、日々成長することができます。

イエス・キリストは長子であられた

地上にやって来る前、わたしたちは天の両親とともに住んでいました。イエス・キリストは長子として、この美しい世界の創造を助けられました。イエスはわたしたちの救い主になるよう選ばれ、地上に生まれることに同意されました。地上に生まれて、完全な模範となり、御自身の福音を教え、わたしたちのために贖罪を成し遂げることができるようになられたのです。

イエス・キリストはわたしたちの罪の代価を支払ってくださった

イエスは御自分の死ぬ時が近づいていることを知り、ゲツセマネと呼ばれる園に行って祈られました。わたしたちの罪の代価を支払ってくださる主の業は、この祈りから始まりました。わたしたちがもし悔い改めるなら苦しまなくても済むように、イエスは進んで苦しみを受けられたのです。わたしたちは罪から離れて救い主に従うとき、赦しと癒しを見いだすことができます。救い主のおかげで、わたしたちはこの世で霊的に成長し、天の御父のもとで永遠の命を得ることができます。主はわたしたちの悲しみや病気や苦痛をすべて経験されました。これが、贖罪の最初の部分です。

イエス・キリストは死に打ち勝たれた

ゲツセマネでの祈りの後、イエスは裏切られ、捕らえられ、十字架による死刑を宣告されました。イエスは全能ではありませんでしたが、十字架上の死を受け入れられました。イエスに従う者たちは、愛を込めてイエスの体を墓に納めました。イエスの肉体が死んでもイエスの霊はなお霊界で生きておられるということを、彼らは理解していませんでした。3日後、イエスはよみがえり、彼らのもとを訪れ、御自身が死に打ち勝つことができたことを証明されました。これによって、贖罪は完了しました。イエスが復活されたために、わたしたちも皆、死んだ後に再び生きることができるのです。



クリスマスと復活祭の意味

世界の多くの地域で、イエス・キリストの贖罪を思い起こす助けになる二つの祝日が祝われています。クリスマスの間、わたしたちはイエスが地上にやって来るといふ使命を進んで受け入れてくださったことを、感謝の気持ちで思い起こします。その使命にはわたしたちのために苦しみを受けて亡くなることが含まれていたにもかかわらず、イエスは引き受けてくださったのです。復活祭では救い主が罪と死に打ち勝たれたことを祝います。これはわたしたちに喜びに満ちた永遠の未来への希望をもたらししてくれます。

救い主の贖罪について聖文はどのように述べているか

イエスはあらゆる種類の苦しみと病、誘惑を受けておられ、わたしたちのことを完全に御存じなので、わたしたちを「救う」こと、すなわち助けることがおできになります（アルマ 7：11 - 12 参照）。

救い主は、わたしたちの嘆きや悲しみを理解しておられます（イザヤ 53：2 - 5 参照）。

神はわたしたち一人一人を愛しておられるので、わたしたちを救うためにイエスを遣わしてくださいました（ヨハネ 3：16 - 17 参照）。

イエスは、わたしたちを含め御自身に従う者が悪から守られ、主や天の御父と一つになれるよう祈られました（ヨハネ 17 章参照）。

救い主は、御自分に従い、御自分のもとに戻るよう、わたしたちを招いておられます（教義と聖約 19：16 - 19, 23 - 24；132：23 参照）。

覚えておくとい言葉

イエス・キリストの贖罪について、楽しく学んでいただけたでしょうか。今月号に出てくるそのほかの福音関係の語句を紹介します。

恵み：イエス・キリストの贖罪を通してわたしたちにもたらされる助けや力（10 ページ参照）。

専任宣教師：一定の期間、日常生活を離れて福音の業を毎日行う割り当てを受けている教会員（21 ページ参照）。

敵対する者：悪魔であるサタン（22 ページ参照）。





十二使徒定員会
ジェフリー・R・
ホルランド長老

キリストの完全を 追い求める

キリストの「満ちみちた」徳の高さにまで至ることを目指す皆さんの個人の努力について、幾つか考えを述べさせてください（エペソ 4：13 参照）。皆さんの人生や、皆さんの置かれた状況に、少しでも役立つことを願っています。

皆さんの中には、自分が望んでいる場所にいる人や、少なくとも人生において自分がどこに行くことを望んでいるのかが分かっている人がいるでしょう。多くの祝福を受け、行く手にすばらしい選択肢が待っている人もいます。一方で、一時的に何らかの理由で、それほど幸運に恵まれておらず、目の前にあまり魅力的な道が開けていない人もいます。

しかし、皆さんがどこに向かっていようと、また、そこに到達するためにどのようにして困難を乗り越えていくのであろうと、皆さんにお願いがあります。個人の目的地を目指すための、個人の幸福と強さを見いだすための、そして究極の行く末を実現し

成功を手にするための、
この復活祭の時季に、
キリストのもとに行く道を進み、
主の心強い安らかな声を
求めましょう。

なくてはならない最初の
一歩として、救い主イエ
ス・キリストのもとに
行ってください（1ニー
ファイ 10：18；2ニー

ファイ 26：33；オムナイ 1：26；教義と聖約 18：11 参照）。

「あなたはどこへ行くのか」（モーセ 4：15）という問いへの返答が、「主よ、あなたがおられる所ならどこへでも」であるなら、あなたはすべてのかなえることができます。

人生には困難が伴うことがあります。乗り越えなければならぬ苦痛や後悔や現実的な問題があります。失望や悲し

み、あらゆる種類の浮き沈みがあります。しかし、それらの問題とどのように向き合えばよいかについて、主と預言者から励ましの言葉が数え切れないほど与えられています。

「わたしは平安をあなたがたに残して行く」

そのような言葉の中で最も感動的なものは、救い主がまさにゲツセマネとカルバリの苦痛と苦しみへ向かわれるときに弟子たちに与えられた祝福です。その夜、すなわちこの世において過去に例がなく、そして今後もないであろう、最も大いなる苦しみの夜のことです。救い主は次のように言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」（ヨハネ 14：27）

最も苦しいときに、何とすばらしい人生の見方をされたことでしょう。救い主は御自分の身にこれから何が起こるのかわかりながら、一体どうしてそのように言うことがおできになるのでしょうか。それは、救い主の教会と福音は、幸せな行く末を約束しているからです。わたしたちにとっては、勝利はすでに遂げられているのです。救い主は長期的な視野を持っておられ、物事の全体像を示してくださっています。

しかしわたしたちの中にはまだ、慰めや助けを得るのは何となく悪いことであり、自分はいつも何らかの点で惨めでないかならないとする、清教徒以来の思考様式を引きずっている人もいます。必ずだと思っています。「キリストの満ちみちた徳の高さ」を追求する中で（エペソ 4：13）、「元気を出なさい」という戒めは（ヨハネ 16：33 参照）、そのほかの点では忠実な末日聖徒の心の中においてさえも、ほとんど従って



キリストの奇跡が使い果たされて、皆さんを助ける分がなくなってしまうのではないかと心配する必要はありません。主の「恵みは十分」にあります。

いない戒めなのではないかと思います。憐れみ深い救い主の心にとって、これ以上に悲しいことは確かにあり得ないでしょう。

もしわたくしの子供の一人が人生のある時点でひどく困っていたり、不幸せであったり、不従順であったりしたなら、わたしはそれだけでも心配になるでしょう。しかし、そのようなときに、その子がわたしを頼って助けを求めてこなかったり、自分の幸福はわたしにとって重要でないとか、わたしの保護の下では守られないと思っていたりするようなら、わたしはなおさら打ちのめされることでしょう。

それと同じく、わたしは次のように確信しています。人々が、父なる神とその御子であられる世の救い主が助けを与えてくださると確信していなかったり、その御手の中にいれば安全だと考えていなかったり、その戒めを信じていなかったりするとき、御二方の心は、だれが想像するよりも深く傷つくに違いありません。わたしたちを愛しておられるからです。わたしの友の皆さん、これだけでも、わたしたちにとって元気を出すことは義務であるとする理由としては十分です。

主の「恵みは十分である」

キリストを求め、その満ちみちた徳の高さを追求することに関するもう一つの勧告が与えられたのは、イエスが5つのパンと2匹の魚で5,000人に食物を与えるという奇跡を行われた後のことでした(マタイ14:13-21参照)。(なお、キリストの奇跡が使い果たされて、皆さんを助ける分がなくなってしまうのではないかと心配する必要はありません。主の「恵みは……十分」にあります〔2コリント12:9〕。それがこの奇跡の霊的な、永遠の教訓です。主は、皆に行き渡った後にも幾つものかごがいっぱいになるほど、たくさんの祝福を用意しておられます。信じて、主が与えてくださる「命のパン」を享受しましょう〔ヨハネ6:35〕。)

群衆に食物を与えた後、イエスは彼らを解散させ、御自分の弟子たちを漁をする舟に寄せ、ガリラヤの海の向こう岸へおやりになりました。それからイエスは、「祈るためひそかに山へ登られ」ました(マタイ14:23)。

弟子たちが舟で出発したときは夕方にさしかかっており、その夜は天気が荒れました。出発

のときから、風が吹きすさんでいたことでしょう。その風のために、弟子たちは恐らく帆を揚げることもできず、オールだけを頼りに進んだと思われまふ。それは大変な苦勞だったことでしょう。

こう言えるのは、「夜明けの四時ごろ」になっても（マタイ 14：25）、弟子たちが数キロしか進んでいなかったからです（ヨハネ 6：19 参照）。その時点までに、舟は実に激しい嵐に巻き込まれていました。

けれども、イエスはいつもと同じく、弟子たちを見守っておられました。弟子たちの困難な状況を御覧になり、救い主は最も直接的な方法で舟に近づいて行かれました。彼らを助けるため、波の間を歩いて渡って行かれたのです。

「恐れることはない」

大変な窮地に陥っているとき、弟子たちが暗闇の中へ目をやると、風に衣をなびかせながら、うねる波の上をこちらに向かってくる、驚くべき御方の姿が見えました。弟子たちはその光景を見て、波の上の幽霊だと思い、恐怖のあまり叫びました。それから、海がとても広く、舟がとても小さく思えたとき、嵐と暗闇の中から、何にも増して力強く安心感を与えてくれる主の安らかな声が聞こえました。「わたしである。恐れることはない。」（マタイ 14：27）

この聖文の話から気づかされるのは、キリストのもとに行こうとすると、キリストの完全を求めようとするとき、またはその完全をもたらしためキリストがわたしたちのところに来てくださるとき、わたしたちは最初の一歩に際して、大変な恐怖に近い気持ちでいっぱいになるかもしれないということです。恐れを抱かせるはずのものではなくても、そのような気持ちにさせられることがあるのです。福音の大いなる皮肉の一つは、人間の先見の明のなさのために、与えられている助けと安全の源から、わたしたちが逃げようとしてしまう可能性があるということです。

わたしは、何らかの理由で求道者がバプテスマから逃げるのを見たことがあります。長老が伝道の召しから逃げるのを見たことがあります。恋人が結婚から逃げるのを見たことがあります。多くを求められる召しから会員が逃げるのを見たことがあります。そして、教会の会員であることから逃げる人たちも、見たことがあります。

自分に救いと慰めをもたらしてくれるまさにそのものから逃げることがあまりにも多いのです。福音に献身することを、恐れるべきもの、そして捨てるべきものと見なしていることがあまりにも多いのです。

ジェームズ・E・タルメージ長老（1862－1933 年）は、次のように述べています。「人はだれでも、人生行路の中で、逆風と荒波にもてあそばされる嵐の海の航海者の戦いにも似た経験に出合うものである。しばしば危険な苦闘の夜が更けて、救援の手も間に合わないときがある。また救援の手がいつそ大きな恐怖の到来と勘違いされることがあまりにも多い。〔しかし、〕荒れ狂う海の真ん中で〔これらの弟子たち〕に聞こえたように、信仰をもって一生懸命働いている者たちにも、『わたし

である。恐れることはない』という救い主の声が聞こえるのである。」¹

救い主のもとに行く

救い主を受け入れるように、救い主のもとに来るように、その満ちみちた徳の高さを追い求めるようにというこの招きがすばらしいのは、だれでも行えるという点です。これはあなたの知っているすべての人が戒めを守りたいと思うという意味でも、あなたが偶然出会うすべての人が戒めを守るだろうという意味でもありません。そうではなくて、特別な賜物や生まれながらの資質などなくとも、戒めを守ることができるということです。

わたしたちが「輝かしく、明るく、清く、強固な」信仰を持つことを、また、キリストが「〔わたしたちの〕文化の至る所にもたらされる」ことを²、そしてわたしたちが人生でキリストの徳の高さに至ることを（エペソ 4：13 参照）、わたしは心から願います。

人生は皆さんに試練を与えます。困難は避けられません。深い悲しみは襲ってきます。愛する人は亡くなります。ですから、皆さんの向かう先がどこであろうと、まずはイエス・キリストのもとに向かう道を進んでください。主の苦しみと復活がわたしたちの困難と死に対する勝利を可能にしているということを覚えておいてください。キリストと聖約を交わし、旅路を進むときにそれを守ってください。

わたしは、自分がまったくもって弱い人間であることを進んで認めますが、それでも、わたしたちが「キリストの満ちみちた徳の高さ」に至れるようにと切望しています。わたしはキリストのもとに行きたいと思っています。もし可能であるならば、キリストにわたしのところに来ていただきたいと思っています。わたしは心から、皆さん全員にその祝福を受けてほしいと望んでいます。■

2020 年 2 月 9 日にアメリカ合衆国カリフォルニア州スタンフォードで行われたヤングアダルト向け複合地区ディボーションにおける説教、「キリストの満ちみちた徳の高さ」から。

注

1. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』331
2. Eric Metaxas, *Bonhoeffer: Pastor, Martyr, Prophet, Spy* (2010), 248.

母のいない席

キャサリン・マクダーモット（アメリカ合衆国、ユタ州）

毎週日曜日の扶助協会で、わたしの母はいつも最前列の同じ場所に座っていました。

夫とわたしは、優しくてすてきな母と同じワードに住んでいました。毎週日曜日、扶助協会会長会の一員であるわたしは、扶助協会の部屋の前側の席に、姉妹たちに対面して座りました。わたしの母は、いつも最前列の同じ場所に座っていました。

わたしは、レッスンに対する母の反応を見たり、母の意見を聞いたりするのを楽しみにしていました。集会が終わると、母はいつもわたしの頬にキスをして、わたしの手を強く握りました。わたしたちは仲が良かったので、母が突然亡くなったとき、わたしは胸

が張り裂けそうになりました。

葬儀が終わっても、わたしの心の傷は癒えません。日曜日になって、わたしは夫に、自分がいなくても問題なく教会に出席できるかと聞かれました。夫は召しのために別のワードに行かなくてはならないことが多かったのです。

「お母さんの座っていた席が空いているのを見るまでは大丈夫だと思う」と、わたしは言いました。「その席が空いているのを見ても気持ちを抑えられるかは分からない。」

夫は、その席を見ないようにしたらどうかと言いました。わたしは最善を尽くすことにしました。

教会の人たちは皆、協力的で、優しくしてくれました。扶助協会に行く時間になり、わたしは部屋の前側に着席しまし

たが、視線は床に向け続けていました。

しかしレッスンは始まったとき、わたしはつい、母がいつもいた場所を見てしまいました。てっきり母のいない空席があるだろうと思っていたのですが、その代わりに見えたのは、母の席に座っているわたしのミニスタリングシスターでした。彼女はわたしにほほえみかけました。わたしは彼女の優しさに、安らぎと感謝の念を覚えました。わたしは悲しみに押しつぶされることなく、集会を乗り切ることができました。集会の後、彼女にお礼を言いました。

「今日は、母の席が空いているのを見たらどうしようもなくなると思っていたんです。どうしてそれが分かったんですか？」わたしはそう尋ねました。

「今日部屋に入ったとき、お母様の席が空いているのを見るのはあなたにとっておつらいでしょうと感じました」と彼女は答えました。「だから、そこに座ることにしたのです。」

この優しい行いはわたしにとって、彼女が思う以上に大きな意味を持っていました。わたしは、彼女が御霊のささやきに耳を傾けてくれたことに感謝しています。小さな行いでも、わたしたちがミニスタリングをする相手に癒しの効果をもたらします。救い主はわたしたちがこのような形で奉仕し合うよう望んでおられるに違いありません。■





ジョシー・デルガダ・トリニダード

マレーシア、コタキナバル

この世におけるわたしの召しは、母親のない子供や、母親がそばにいない子供の世話をすることかもしれません。

以前は、独身であることを残念に思い、自分の子供を強く望んでいましたが、母となることは神がすべての女性に与えておられる特別な召しです。あなたも自分の子供はいないかもしれませんが、それでもあなたは母親になれます。

さらに知るために

・ジョシーの話は、
[ChurchofJesusChrist.org/
go/42113](https://ChurchofJesusChrist.org/go/42113) でお読みいただけます。

写真：シャロット・ラーカバル

「姉妹、あなたを愛しています」

ビル・マグロウ（アメリカ合衆国、オクラホマ州）

促しに基づいて行動することを決して恥ずかしく思うべきではありません。

長 老定員会会長会で奉仕していたときの話です。霊的な促しを感じ、それに基づいて行動したことがあるかと、面接の中で定員会のある会員に尋ねました。その会員は少し考えてから、経験を分かち合ってくれました。

ある日の午後、食器を洗っていたときのことです。彼は隣の家に行ってドアをノックするべきだという強い印象を受けました。理由は分からなかったのですが、その促しは強力で、切迫していました。彼は手を止めて、すぐに出て行きました。

隣人のドアの前まで来て、何をすべきかも言うべきかも分からないままノックをしました。だれも答えません。もう一度ノックしました。それでも、答えは返ってきません。留守なのだと結論づけ、彼は帰ろうとしました。しかしそのとき、もう一つの促しを感じたのです。

彼はドアの前に戻り、ただこう言いました。「姉妹、愛しています。」そして、その場を去りました。

彼は、この経験は普通ではないと思い、少々恥ずかしく感じていました。わたしは彼に、主は必ずしも促しの理由を告げてくださるわけではないが、わたしたちはそれに基づいて行動することを決して恥ずかしく

思うべきではないと言いました。この兄弟は、その面接の後程なくして転出していきました。

翌年の断食証会でのことです。わたしの知らない姉妹が壇上に立ち、証を述べました。その姉妹は涙ながらに、次のように説明しました。彼女はそれまで数年にわたって教会を離れていて、その間、大変落ち込んでしまい、もうこれ以上やっていけないと感じたそうです。

「天のお父様、もしあなたがほんとうにおられ、ほんとうにわたしを愛してくださっているなら」と、彼女は祈りました。「わたしに分かるよう、今、そのように言ってください！」

その直後、ドアをノックする音が聞こえ、さらにもう一度ノックが聞こえました。彼女が答えずにいると、次のような声が聞こえてきました。「姉妹、あなたを愛しています。」

圧倒されるほどの愛の気持ちに包まれ、困難な人生に向き合うための新たな力を見いだすことができた、その姉妹は言いました。まだとびきり良い状態ではないものの、人生は良い方向に向かっているとのことでした。

わたしはこの経験に直接かかわったわけではありませんが、それでも祝福を受けてきました。天の御父はわたしたち全員のことを御存じであり、御自分の子供たちを助けるため、わたしたちに促しに基づいて行動するよう呼びかけられます。そのことを、一見関係のないように思われる二つの信仰の行いを通して理解することができました。わたしはこの知識に感謝し、大切にしています。■

理由があってここにいます

マット・モレル（アメリカ合衆国、ユタ州）

天の御父はわたしたちを愛しておられ、祝福したいと望んでおられて、時にはわたしたちの予期しない方法で祝福してくださいます。

オランダとベルギーで伝道して1年以上がたったころのことです。伝道部会長から電話を受け、新しい地域に転勤することを知らされました。

会長は転勤先と同僚になる長老の名前を告げ、わたしが進んで奉仕することに感謝してくれました。わたしは別の地域に行くことを望んでいたのですが、国を横断して新しい地域に移動することになり、自分を忘れて務めに出て行こうと最善を尽くしました。

到着したときから、わたしはなぜ自分がこの地に割り当てられたのだろうと考えていました。ある日、同僚から、プエルトリコ出身のあまり活発ではない女性に会う約束があると言われました。その女性が話せるのはスペイン語だけでした。同僚がスペイン語を話せたのは幸いでした。わたしにはまったく話せなかったからです。

約束の間、同僚はその姉妹と話し、わたしはただほほえんだりうなずいたりしていました。メッセージを伝える前に、わたしが一緒に読むのに使えるオランダ語のモルモン書を持っていないかと、同僚がその姉妹に尋ねました。わたしたちはその日、最後の1冊を譲ってしまっていたのです。彼女は棚の最上段から本を取り出しました。

同僚はその本を開き、最初のページに目をやりました。そしてわたしを見て、



「この人、知ってる?」と聞いてきました。

同僚が見せてくれたその最初のページには、わたしとは別人のモレル長老による証が記されていました。わたしはメッセージと一緒に書かれていた住所に覚えがありました。

何年前か前、わたしのいとこがプエルトリコで宣教師としてこの姉妹のワードで奉仕していたのです。いとも彼と同僚は、この姉妹がオランダに引越すことを知ったとき、自分たちの証を記したオランダ語のモルモン書を渡したのです。

いとこの証を読み終えたとき、わたしは御霊のささやきを強く感じました。「あなたは理由があってここに

います」と、御霊は言っているようでした。「この地域には、あなたを通じて福音へと導かれるのを待っている人々が大勢います。」

この証を書いた長老はわたしのいとこであると説明したとき、その姉妹は、神が自分に手を差し伸べて、どれほど愛しているか、どれほど教会に戻ってほしいと望んでいるかを示しておられるのだと感じると、わたしたちに言いました。

天の御父はわたしたちを愛し、祝福したいと望んでおられて、時にはわたしたちの予期しない方法で祝福してくださいます。わたしは神の御手に使われる者となり、この姉妹の人生を祝福できたことにへりくだる思いがしました。■

独身者を 独りにしない ために

独身の会員が教会で
打ち解けた気持ちに
なれるよう、あなたと
あなたのワードは何
ができるでしょうか。
この記事では、幾つか
の行いを提案します。

〔注：インクルージョンは
「包含」「包括」などの意味
を持ち、「受け入れられ、認
められていると実感できる
状態」を指す〕

ジェイコブ・コール

「ワード大会の次の集会を始めるに当たって、移動して家族と一緒に座ってください。」

このような言葉を聞くといつも、わたしは少々ばつが悪い思いをします。独身の男性の教会員であるわたしは、どこに座ればよいのでしょうか。時には、ほかの人たちも、わたしがどこに座ればよいのか、あるいは収まればよいかが分からないようです。結婚しているか否かにかかわらず、だれもが歓迎され受け入れられていると感じられる

ようにするため、わたしたちは福音の家族として何ができるでしょうか。

以下の3つのアイデアが役に立つかもしれません。



ワードの習慣を見直す

回復された福音は、わたしたちが永遠の家族についてのすばらしい教義を理解するための助けになります。しかし、教義の周辺にある一部の文化的習慣によって、わたしは結婚していない人たちが自分は教会において重要な会員ではないと感じている様子を見てきました。

例えば、わたしが出席したことのあるワードでは、集会の開会と閉会の祈りを夫婦だけに頼んでいました。独身の男性がビショップリックに召されたとき、ワードの会員が懸念を表明するのを耳にしたこともあります。こうした小さな行いによって、結婚していない人たちが教会で打ち解けた気持ちになる前に克服しなければならない感情的な障壁ができてしまう可能性があります。

あなたやあなたのワードが皆を輪の中に迎え入れるために、変えられる習慣はありませんか。これは、ビショップリックやワード評議会が検討する価値のある問いかもしれません。

気づかないうちに除外することのないよう注意する

インクルージョンを実践していると思っている人でも、気づかないうちに排他的になってしまうことがあります。例えば、託児指導者として奉仕していたとき、わたしは教会の集会の2時間目に伝えられる発表事項を聞き逃すことがよくありました。ある指導者にこの件について話したところ、その人は、「でも、あなたの奥さんが扶助協会で発表事項を聞いてくるんじゃない?」と言いました。

そのとき、わたしはただ笑っただけでした。しかし、この善良な男性の返答は、わたしを除外する思考の表れの代表的な例なのです。わたしたちとは



にも集う教会員を、結婚している男性と女性、そして子供から成る「ファミリーワード」の一員として見ているでしょうか。それとも、互いを思いやり、強め合う個人から成る「ワードファミリー」の一員として見ているのでしょうか。どちらの見方も大切です。わたしたちは、ワード内の家族に意識を向け続ける一方で、それぞれの個人と知り合い、その境遇、関心、必要としているものを知ることができ、それによって、気づかないうちに排他的になるのを防ぐことができます。

家族の輪を広げる

ワード大会の際に家族と一緒に座るようビショップリックの兄弟が言ったとき、だれかがわたしの肩をたたきました。「次の時間、わたしの家族の一員になるというのはどうかしら」と、その親切な姉妹は言い、自分の夫や子供たちと一緒に座るようわたしを招いてくれました。わたしに思いやりを示し、歓迎されていると感じてほしいと思うこの姉妹のような人たちに、わたしは感謝しています。ほかにもそのような人の例として、自分の家族が行う毎週の家庭の夕べにいつもわたしを招いてくれるビショップが挙げられます。

フェローシップの輪を広げることで、あなたの家族はだれを助けられるでしょうか。完璧な努力をする必要はありません。ただ招くだけで、大きな影響をもたらすことができます。

独身の聖徒たち：善を行う力強い軍勢

わたしは多くの良い人間関係を持ちながら充実した生活を送っていますが、さらに多くを望む思いが強いとき、寂しさや満たされなさを感じる事が度々あります。ほかの結婚していない聖徒たちとの会話から、このような気持ちは広く見られるものだ確信しています。

しかし、わたしは自分を哀れだとは思わないように努めています。わたしのよう結婚していない人たちも、ほかの人たちの人生において善を行う力強い軍勢になることができます。わたしたちは、友人、愛する家族、ワードやステーク全体を強めるのを助けることができます。教会は、わたしたちを必要としています。わたしたちは、つながりを築く責任をほかの人たちの手に委ねるべきではありません。ワードで自分を紹介し、自発的に奉仕し、自分が必要としているものをはっきりと口に出すことができます。

人生のどの時点においても、どのような人間関係を築いていたとしても（または築いていなくても）、寂しさや満たされなさを感じる時はやって来ます。天の御父に近づき、その愛をより多く感じられるようになることで、わたしたちは善を行い、喜びを見いだし、兄弟姉妹とつながるための力をより多く得ることができます。■

筆者はアメリカ合衆国アラバマ州在住です。

一人一人が尊い存在である

「わたしたちは既婚者や独身者としてではなく、教会員として分類されるべきです。同じ注目と同じ思いやりを受け、同じ奉仕の機会を与えられる存在としてです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）「独身成人との語らい」『聖徒の道』1997年11月号, 18

わたしは昼から日が暮れるまで、会社から会社へと
自転車で回り、仕事を探しました。



七十人
ハンス・T・
ブーム長老

世の思い煩いに 打ち勝つ

世の思い煩いによって神の言葉に従うことから注意をそらされてはなりません。

わたしたちは、たとえ大いなる祝福を約束されていても、主の御心ではなく世の思い煩いを気にかけっていると、そうした祝福を失うことになります。このことは、回復の初期の時代におけるある男性の経験によく表れています。

ジェームズ・コービルは別の宗派の牧師を40年間務めた人でしたが、回復された福音を聞いた後、「主が預言者ジョセフを通して与えてくださる戒めには何でも従うと、主に聖約しました（教義と聖約39章、前書き）。ジョセフを通して、主はコービルに次のように言われました。「わたしの声を聴きなさい」……。わたしの声はあなたに言う。『わたしの名を呼び、立ってバプテスマを受け、あなたの罪を洗い清めなさい。そうすれば、あなたはわたしの御霊と、かつて知らなかったほどの大いなる祝福を受けるであろう。』（教義と聖約39：10）

しかし、コービルはすぐに「主の言葉を拒んで、彼の以前の信条と人々のもとに戻って行[き]」ました（教義と聖約40章、前書き）。コービルについて語る中で、主は、「彼は喜んで御言葉を受け入れたが、サタンはすぐに彼を誘惑した。そして、迫害の恐れと世の思い煩いが、彼に御言葉を拒ませた」と言われました（教義と聖約40：2）。この世的な思い煩いのために、コービルは主から約束されていた祝福を失ってしまったのです。

とどまるべきか行くべきか

世の思い煩いによって神に従うことから注意をそらされてはならないことを、わたしは自分の人生の中で学んできました。わたしは、愛にあふれたすばらしい家庭で育ちました。両親はわたしたちに福音についてしっかりと教えてくれました。わたしたちに対する両親の愛には、御自分の子供たちに対する天の御父の愛が反映されていました。

16歳のとき、わたしは合衆国のとある農場で働かないかと誘われました。いつの日か、そこに自分の家を建てられるかもしれないとの話でした。それはわたしにとって魅力的でした。わたしの母国オランダは小さい国で、住民がひしめき合っているからです。

実のところ、父方の先祖は皆、わたしと同じく、どこか別の場所に住みたいという願望を抱いていました。彼らは、以前オランダの植民地だったインドネシアに移り住みました。わたしにはその理由が大変よく分かりました。インドネシアは気候が良く、景色が美しく、土地が豊富です。わたしにも、先祖を突き動かしたのと同じ、旅好きの血が流れていました。わたしも成功と冒険を求めて母国を離れるべきでしょうか。

どうすべきか考えていたとき、父からある手紙の写しを渡されました。それは、伝道部会長のドノヴァン・ヴァン・ダム会長が何年も前に父とその姉妹たちへ送ったものでした。ヴァン・ダム会長は父たちに、オランダにとどまり、その地に教会を築くよう求めていました。自分はまさにそうすることに決めたのだと、父はわたしに言いました。その手紙には



ブームという名字が記されており、今度はわたしが自分はどうするべきか決める番というわけでした。

第二次世界大戦後の時期は、多くの教会員がアメリカやカナダに移住していました。教会の指導者は会員に、自国にとどまり、自身が住んでいる地で教会を強めるよう勧めていましたが、それにもかかわらず、移住の流れは1970年代にも続いていました。祈りをもって、わたしもまたオランダにとどまり、その地で教会を築くという決断をしました。それが将来どのような意味を持つことになるかは、十分に分かってはいませんでした。

決断、また決断

わたしが高校を卒業した1970年代後半、オランダ経済は混迷していました。失業率は高く、あらゆる面で状況は厳しいように見えました。卒業後の進路を決めるのは難しいことでした。

わたしの父は、支部会長として奉仕していました。時々、父とわたしは専任宣教師として奉仕する可能性について話し合いました。もちろん、それはすばらしいことです。わたしはそれまでずっと伝道を楽しみにしていました。

しかしわたしには、伝道に出ることが将来の家族を養うためにどう役立つのか分かりませんでした。わたしは幼いころから常に、いつの日か生涯の伴侶を見つけて家庭を築きたいという、強い望みを持っていました。

当時17歳だったわたしは、次に何をすべきか分からなかったで、次の段階の教育を受け始めました。しかし、何週間かたった後、その分野の学問はわたしの幸せのためにならないことに気づきました。そもそも、その分野で安定し

た職が得られるのかさえ疑わしく思えました。わたしは退学を考えました。

両親はそれを快く思いませんでした。彼らは、退学するなら職を得ていなければだめだと言いました。恐らく、経済危機のせいで職は決して見つからないと思ったのでしょう。わたしは昼から日が暮れるまで、会社から会社へと自転車で回りました。最終的に、ある会社がわたしを倉庫で作業する仕事に雇ってくれました。

わたしの計画

わたしはその一時的な職には就いたのですが、ある計画を持っていました。警察官になるつもりだったのです。公務員は家族を養うための安定した道であり、すべてがうまく行くだろうと思いました。

警察学校に入るため試験を受けに行った日のことを思い出します。朝早く電車に乗り、一日かけてあらゆる種類の試験をこなしました。最終的に、わたしは事務所に呼ばれました。すべての試験に合格しており、喜んで雇いたいところだが、まだ17歳なので若すぎると言われました。来年再挑戦してほしいとのことでした。

何かかまご破算です。帰り道ではずっと、「何てことだ」と考えていました。家で、父はわたしの不満に耳を傾け、祝福を授けようと言ってくれました。わたしが期待していたのは、すべてがうまく行き、警察学校への入学が奇跡的に認められるであろうと主が言ってくださることでした。しかしその代わりに主が言われたのは、もし主を第一に選ぶなら、わたしは常に食卓のパンに困ることはなく、将来の家族を養う収入を得られるということでした。



ブーム長老姉妹の家族（2019年撮影）。この後、孫娘がもう一人誕生している。

より良い計画

わたしは祈り、自分にとって主を第一にすることは専任宣教師として奉仕することを意味するという答えを得ました。それまでも常に主を第一にしようとは思っていたのですが、ある行動がどのようにして次につながっていくかわかっていませんでした。今や伝道に出ることがわたしの行くことだと分かったので、わたしはできるだけ早くそれを実行したいと思いました。

当時、伝道にはオランダの旧通貨で1万ギルダーが必要でした。これは約1年分の賃金に相当します。わたしは倉庫での仕事を続け、1981年の夏までに1万ギルダーをためました。また、18歳にもなりました。支部会長だった父からは、伝道には若すぎると言われました。地方部会長と伝道部会長にも同じことを言われました。当時は、19歳である必要があったのです。しかし18歳の誕生日に、わたしは一人で医師と歯科医に会いに行き、宣教師申請書の医師記入欄を埋めてもらいました。

指導者にもどうにか面接してもらえることになり、申請書を提出しました。そして、わたしたちは待ちました。わたしは知らなかったのですが、支部会長である父は一通の手紙を受け取っていました。申請書は父に返却され、それには、わたしは若すぎるという通知が添えられていました。しかし、父はまだわたしに伝えたくないと思い、わたしに知らせないまま、自分のスーツのポケットに手紙を入れて何週間も持ち歩いていました。幸い、そうしているうちに父はもう一通の通知を受け取りました。その通知には、中央幹部は若者がよく備えられている場合に早く伝道に出るのを認める

ことがあると書かれていました。間もなくして、わたしは奉仕の召しを受け、イングランド・ロンドン東伝道部に割り当てられました。わたしの伝道は、生涯の祝福になりました。

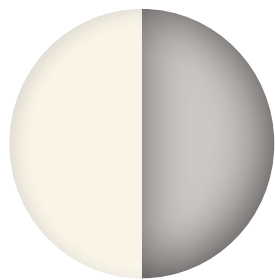
主からの祝福

伝道から帰還して3か月たったころ、わたしは生涯の伴侶に出会いました。1年後、わたしたちは結婚し、イングランド・ロンドン神殿で結び固められました。経済はまだ好調ではありませんでしたが、わたしはこれまでずっと職を持ち、家族を養い続けることができました。食卓のパンに困ったり、住む場所がなくなったりすることはありませんでした。

宣教師として、わたしが好きになった聖句の一つは次の言葉です。「あなたは神の戒めを守るかぎり地に栄えるであろう。」(アルマ 36:1) この言葉を導きとして、わたしは父と同じことを行おうと決意しました。オランダにとどまり、母国で教会を築くのです。

わたしが育った小さな支部は、今日ではすばらしいワードとなり、そこで孫たちは大きな初等協会に集い、多くの友人との交わりを楽しんでいます。わたしの息子たちは良い職業に就き、食卓のパンに恵まれています。わたしの数々の決断は次の世代にも影響を与え、彼らも人生において主を第一にしたいと望んでいます。

世の思い煩いに打ち勝って天の御父を第一にすることこそが正しい決断であると、人生の早い時期に学べたことを感謝しています。そのおかげで、もしそれを学んでいなかったならば決して知ることがなかったであろう様々な祝福を、天の御父から受けてきました。■



救い主とサタン

際立った相違点

イエス・キリストとサタンとの違いを比較すると、
救い主の使命と愛に対する
感謝の念が深まります。

セミナー・インスティテュート
キャスリン・トーマス

救い主は、御父の計画を成し遂げることを進んで申し出ることによって、神のすべての子供たちに賜物を与えてくださいました。それがいかに尊い賜物だったか、よく考えてください。前世の会議で、天の御父が「わたしはだれを遣わそうか」と言われたとき、救い主は柔和に、「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください」と答え（アブラハム 3:27）、さらに「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように」と述べられました（モーセ 4:2）。

イエス・キリストがわたしたちの救い主になることを申し出てくださったのは、わたしたちを愛しておられたからでした。¹一方で、御父の計画に対するサタンの反応は利己的でした。サタンは「全人類を贖〔う〕」と主張しましたが（モーセ 4:1 参照）、「自発的にわたしたちの救い主になろうとはしていませんでした。サタンはほかの人のために苦しんだり死んだりすることには関心がありませんでした。自分の血を一滴も流すつもりはありませんでした。何の代価も払わずに、神の栄光、誉れ、力を手に入れようとしていたのです。……サタンが至高者となり、ほかの人々の進歩は封じられる

のです。」²

それとは反対の立派な御方であられるキリストがなさることとはすべて、わたしたちへの完全な愛と（2 ニーファイ 26:24 参照）、天の御父を敬いたいという望みに根差しています（ヨハネ 8:28 - 29 参照）。次のことを思うとき、謙遜にさせられ、霊が鼓舞されます。「イエス・キリストは計り知れない愛に満ち、理解し難いほどの苦痛と残虐と不正を、わたしたちのために堪え忍ばれました。わたしたちへの愛を通して、ほかの方法では乗り越えることのできないあらゆる障壁を乗り越えてくださいました。……それによって、わたしたちもこの世の苦痛と残虐と不正を乗り越えて、人々を助け、赦し、祝福することができるようになるのです。」³「ああ、わがため主は死にたもう、奇しきみ業」とわたしたちが歌うことに、何の不思議があるでしょうか。⁴

聖文の中には、イエス・キリストと敵対者サタンの特質の比較が数え切れないほど記されています。それらを調べると、救い主の完全な愛がいかに広い範囲に及んでいるかが理解できるようになります。



サタン

「あなたがたの敵である悪魔が、**ほえたけるし**のように、食いつくすべきものを求めて歩き回〔り〕」(1ペテロ5:8)、「人々の霊を滅ぼそうとして、地を行きつ戻りつ、あちらこちらと歩き回っている。」(教義と聖約10:27)

「悪魔は、『**わたしにあなたの誉れを与えてください**』と言って、わたしに背いた。彼の求めた誉れはわたしの力である。また、彼は天の衆群の三分の一を、彼らの選択の自由によってわたしから背き去らせた。」
(教義と聖約29:36)

その者は「**闇の業**と忌まわしい行いを地の全面に**広め**、ついに民を完全に滅ぼし、永遠の地獄に引きずり落としてしまった……。」(ヒラマン6:28)

サタンは「人の選択の自由を損なおうとし」(モーセ4:3)、「**すべての人が自分のように惨めになることを求めている……**。」(2ニーファイ2:27)

イエス・キリスト

「わたしは**よい羊飼**である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。……そして、わたしは羊のために命を捨てるのである。……命を捨てるのは、それを再び得るためである。だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。」(ヨハネ10:11, 15, 17-18)

「わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったまま……いつも神のみこころにかなうことをしている……。……**わたしは、……わたしの父を重んじている……**……。……わたしは自分の栄光を求めてはいない。」
(ヨハネ8:28-29, 49-50)

「わたしは**世の光**である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ8:12)

「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためであ〔り〕」(ヨハネ10:10)、「**打ち砕かれた心を持つ者を癒し**、囚人に解放を説き、盲人の目を開き、打ちひしがれている者に自由を得させるためである。」
(欽定訳〔英文〕ルカ4:18から和訳)



サタンは「終わりの日には**自分の子らを助けようとせず**」(アルマ 30 : 60), 「彼らにへつらい, 彼らを導いて, 最後には彼らの霊を地獄へと引きずり込 [み]」(教義と聖約 10 : 26), 「恐ろしい鎖で縛ってしまう。」(2 ニーファイ 28 : 22)

「わたしはあなたがたの中におり、**父に対するあなたがたの弁護者** [であり]」(教義と聖約 29 : 5), 「すなわちイエス・キリスト, あなたがたの弁護者, 人の弱さを知っており, 誘惑を受ける者たちを助ける方法を知っている者 [である]。」(教義と聖約 62 : 1)

「悪魔は互いに怒って争うように**人々の心をあおり立て**」(3 ニーファイ 11 : 29), 「善いことに逆らって罪悪を行うように彼らをあおり立てている。」(教義と聖約 10 : 20)

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。**わたしの平安をあなたがたに与える**。わたしが与えるのは, 世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな, またおじけるな。」(ヨハネ 14 : 27)

サタンは「不信の者たちの思いをくらませて」(2 コリント 4 : 4), 「あなたの証を打ち倒そうと考えて [おり]」(教義と聖約 10 : 33), 「来て, ……**光と真理を取り去る**。」(教義と聖約 93 : 39)

「あなたは求めれば, 啓示の上に啓示を, 知識の上に知識を受けて, 数々の奥義と平和をもたらす事柄, すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。……それゆえ, 知恵に不足している者はわたしに願い求めなさい。そうすれば,**わたしはとがめもせず**に惜しみなく与えるであろう。」(教義と聖約 42 : 61, 68)

絶えず, 「[救い主の] 永久の恵みと無限の慈愛について考え」, 「わたしたちに命の賜物が永遠に与えられた」のは救い主のおかげであるという真理を大切にすることができますように。⁵ ■

注

1. ジョセフ・B・ワースリン「決して屈してはならない」『聖徒の道』1988年1月号, 10 参照
2. D. Todd Christofferson, “A Message at Christmas” (Brigham Young

- University devotional, Dec. 12, 2017), 4, speeches.byu.edu.
3. ジョン・H・グローバーク「神の愛の力」『リアホナ』2004年11月号, 11
4. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109 番
5. “As Now We Take the Sacrament,” *Hymns*, no. 169.

ジェーンは喜びを感じながら旅をした

わたしたちには、ジェーン・マニング・ジェームズのように、信仰を持って旅を全うする決意があるでしょうか。

ジェーン・マニング・ジェームズは歩き疲れていましたが、立ち止まろうとはしませんでした。

ジェーンの長男であるシルベスターは、荷馬車と並んで歩けるくらい大きくなっていました。しかし、道中で生まれた赤ん坊のサイラスは、まだ抱えて歩かなければなりませんでした。これは1847年のことです。ジェームズ家族はこの後間もなく、最初の開拓者の一団に加わって、グレートソルトトレークの盆地に到着することになります。

ジェーンにとって、長旅は初めてではありませんでした。

その4年前、ジェーンの家族は西部の開拓地との境界線にあるノーブーにいた聖徒たちに加わるため、東部の町にある自分たちの家を後にしました。河川を利用する旅で、数日しかかからないはずでした。しかし、当時の合衆国では多くの黒人が奴隷だったため、ジェーンの家族は度々、自由の身であることを証明する書類を提示するよう求められました。また場所によっては、白人以外がその地域を通行するこ



とを禁じる厳しい法律が存在し、通行に対して一人当たり最大500ドルの支払いが求められることもありました。

その法外な請求額のためか、そのほかの偏見のためか、船の乗組員はジェーンとその家族をそれ以上乗船させることを拒みました。ジェーンたちはそれで諦めることなく、持ち物の多くを後に残し、持てるかぎりの荷物を持って徒歩で出発しました。

ジェーンの家族は800マイル(1,287キロ)以上歩きました。湿度の高い昼も真っ暗な夜も歩き続けました。森の中を歩き、野宿したこともありました。目が覚めたとき、ジェーンたちの服は霜で白くなっていました。

「靴がすり減るまで歩きました。足は

痛み、裂けて出血しました」とジェーンは回想しています。「……永遠の父なる神に、足を癒してくださいよう頼むと、わたしたちの祈りはこたえられました。」¹

この苦しい旅を堪え忍ぶ中で、ジェーンは両親やきょうだいとともに賛美歌を歌い、神をほめたたえました。3か月近く歩いた後、ついにジェーンたちはノーブーに到着しました。数年後、忠実な聖徒たちが大平原を横断するために出発したとき、ジェーンはその道を歩き始めた最初の開拓者たちの中にいたのです。■

注

1. "The Autobiography of Jane Manning James," history.ChurchofJesusChrist.org/article/jane-manning-james-life-sketch.



3月29日-4月4日

復活祭

ジョセフ・スミスは死と復活についてどんなことを教えているか

ジョセフ・スミスは啓示を通して、イエス・キリストのおかげで死者のだれもが復活して再び生きられることを知りました(教義と聖約 29:26 参照)。ここではジョセフが語った、希望に満ちた教義の一部を引用します。

悲しみの中にも希望がある。

「わたしたちの中から取り去られた人々のために、心に悲しみを覚えます。それでも希望がないわけではありません。わたしは再び彼らと会い、ともにいることになるからです。」¹

話し合い

復活の約束は、あなたにどのように希望と平安をもたらしますか。あなたは、これらの真理をほかの人たちとどのように分かち合いますか。

死は神の計画の一部である。

「地上に生き長らえて、〔わたしの兄弟であるアルビンやドン・カーロスが〕若い盛りに取り去られるのを目にするのは、わたしにとってつらいことです。……それでもわたしは、わたしたちが穏やかにしているべきことを知っています。それが神の御心であることを知り、神の御心に従わなければならないことを知っています。すべてが正しいことなのです。」²

死は一時的なものである。

「〔わたしたちの〕親戚や友人は、少しの間肉体から離れているにすぎないのです。」³

義人は恐れるには及ばない。

「わたしたちの死者に対しては、地上のどんな民にも増して大いなる希望と慰めを抱くだけの理由があります。」⁴

注

- 1.『歴代大管長の教えージョセフ・スミス』179。「家族ー世界への宣言」ChurchofJesusChrist.org も参照
- 2.『教えージョセフ・スミス』178 - 179
- 3.『教えージョセフ・スミス』174
- 4.『教えージョセフ・スミス』174



4月5-11日

教義と聖約30-36章

主は御自分に仕える者を どのように祝福なさるか

家族を置いて伝道に行くよう召された後、トーマス・B・マーシュは、自身の払う犠牲に対して多くの祝福を約束されました(教義と聖約31:2, 5, 7 参照)。

マーシュ兄弟のほかにも多くの人が、主の回復された教会を世界中に築こうと努める中で祝福を受けてきました。その一例が、ヨハン・フーバーとテレジア・フーバーです。二人は20世紀初頭にオーストリアで教会を設立するのを助けました。

話し合い

あなたが主に仕えたとき、主はあなたや家族をどのように祝福してくださいましたか。

注

1. See "The First Branch in Austria," Church of Jesus Christ, org/study/history/global-histories.



ヨハン・フーバーとテレジア・フーバー、その子供たち
(1898年ごろ)。

苦難をもともしない信仰

フーバー家族がバプテスマを受けて教会に入り、オーストリアで最も有力な宗教だったカトリックの信仰を離れたとき、多くの社会的、および法的な問題が生じました。人々は、フーバー家の子供たちが告解〔訳注一カトリック教会で、洗礼を受けた後に犯した罪を、司祭を通して神に告白し、赦しを請う宗教行為(世界宗教用語辞典)〕に出席していないことを知ったとき、その子供たちを家から引き離すと脅しました。テレジアに、ヨハンと別れるように言う人さえいました。



ヨハン・フーバーの会員記録。

祝福と新たな機会

第一次世界大戦の後、それまでの宗教の制限が解消され、人々は信仰をより自由に実践できるようになりました。主は、フーバー家族が福音を分かち合い続けるのを見守られました。そして間もなくして、小さな支部の集会在、フーバー家の納屋で開かれるようになりました。ヨハンは、オーストリアで最初の支部会長として奉仕するよう召されました。彼は25年間にわたって支部会長を務めました。¹



オーストリアで初めて行われた末日聖徒の礼拝行事は、フーバー家の納屋(写真)で行われた。



4月12-18日

教義と聖約37-40章

神はわたしたちをどのようにして 集められるのか

救い主は、わたしたちに「一つとなる」よう命じられました。主は、「もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない」と言われました（教義と聖約 38 : 27）。わたしたちが一つとなるための一つの方法は、集まることです。

大管長会第二顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように教えています。「天の御父は、御自分の家族を集め、祝福することを切に願っておられます。」¹ わたしたちが集まり、信仰をもって結束するための方法を3つ紹介しましょう。



話し合い

ほかの聖徒たちと集まることを通じて、あなたはどのような祝福を受けてきましたか。神が御自分の子供たちを集められるのを手伝うことで、あなたはどのような祝福を受けてきましたか。

注

1. ヘンリー・B・アイリング「神の家族の集合」「リアホナ」2017年5月号, 20
2. デール・G・レンランド「家族歴史と神殿活動—結び固めと癒し」「リアホナ」2018年5月号, 49

1. 一つの場所に集まる

回復の最も初期に、神は御自分の聖徒たちに、「心を備え、またあらゆる点で備えられるように、彼らは……一つの場所に集められなければならない」と命じられました（教義と聖約 29 : 8）。

初期の末日聖徒はオハイオ、ミズーリ、イリノイ、ユタ、イギリスなど、多くの場所に集まりました。ともに集まることは、会員を強め、教会を築く助けになりました。

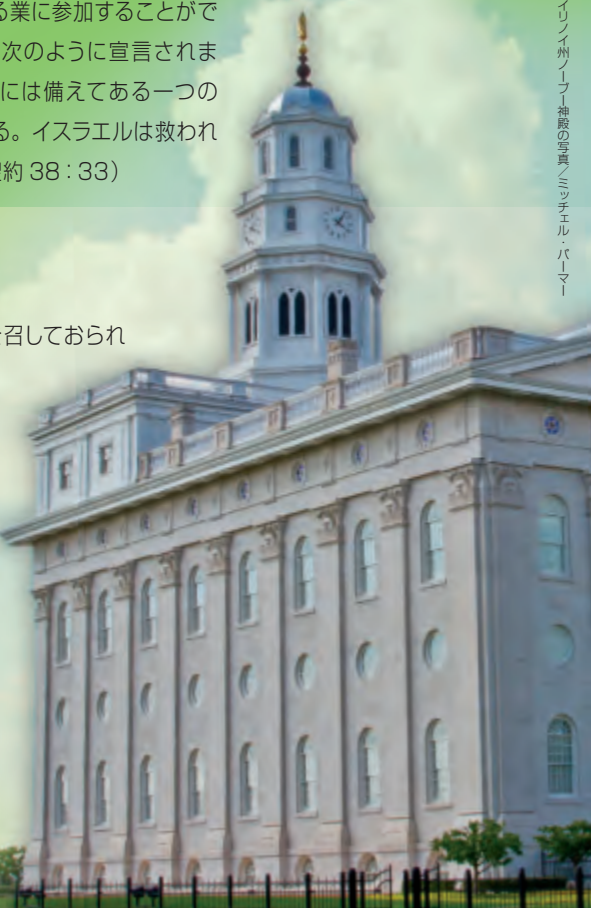


2. 自分のいる場所で集まる

時がたつにつれ、教会指導者は会員に、それぞれ自国で集まり教会を築くよう勧めるようになりました。ともに集まる場所がどこであっても、会員は散らされたイスラエルを集める業に参加することができます。主は次のように宣言されました。「わたしには備えてある一つの大きい業がある。イスラエルは救われ〔る〕。」（教義と聖約 38 : 33）

3. 幕の両側で集まる

神は「〔御自分〕の選民を集めるために」わたしたちを召しておられます（教義と聖約 29 : 7）。これには、わたしたちが伝道活動を通じて集めることと、幕の向こう側において集めることが含まれます。十二使徒定員会のデール・G・レンランド長老は次のように教えています。「わたしたちが家族歴史を集めて、先祖のために神殿に参入するとき、神は、とぼりの両側で同時に……約束された祝福の多くを成就してくださいます。」²



イリノイ州ノース・デモイネーの神殿の奇蹟ミツチエル・バーマー



4月19-25日

教義と聖約41-44章

どうすればエドワード・パートリッジの ような人になれるのか

エドワード・パートリッジは、イエス・キリストの回復された教会における最初のビショップでした。教会が真実であることを知っていたので、確固とした証をもって、自身の持っていたあらゆるものを進んでささげ、苦難に次ぐ苦難を堪え忍びました。

どのような人だったのか

主は、エドワードの「心〔は〕わたしの前に清〔く、〕彼は心に偽りのない、昔のナタナエルのようなものである」と言っておられます（教義と聖約 41：11）。つまりエドワードは、ほかの人を欺いたりだましたりすることを望まず、純粋な意図で働いていたということです。この特質を持つことが教会指導者にとって大切なのは、なぜでしょうか。

どのような犠牲を払ったか

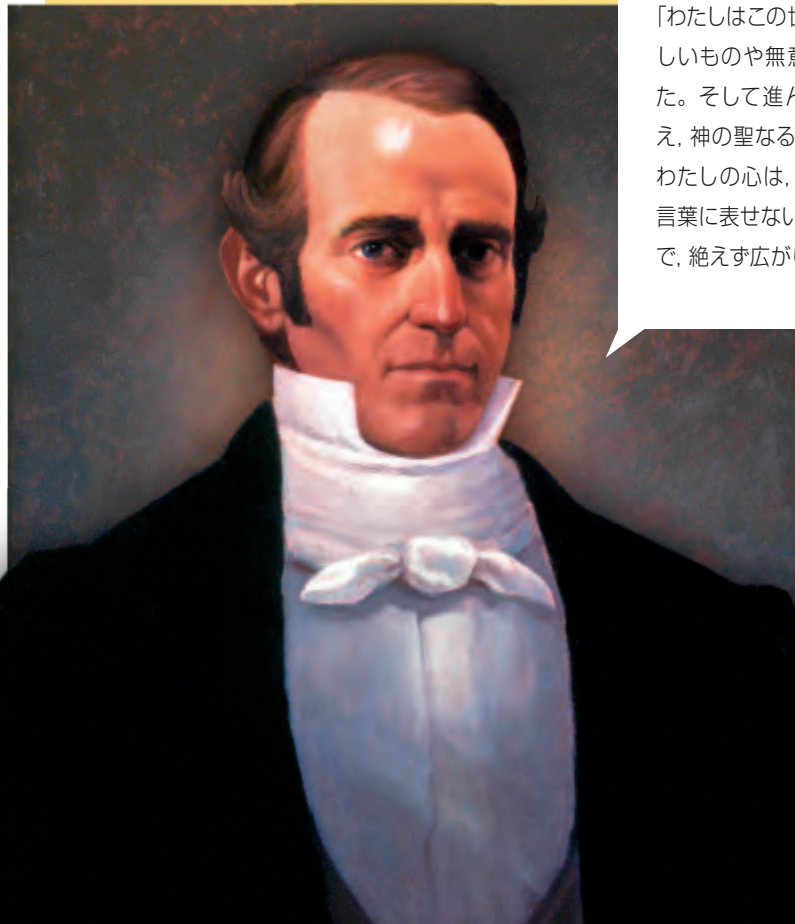
エドワードが教会に加わったとき、彼の父方の家族はエドワードを拒みました。エドワードはビショップとして、聖徒たちの奉献された財産を管理しました。また自分自身の財産もささげ（教義と聖約 41：9 参照）、家族とともに極度の貧困を堪え忍びました。自身の信仰のためにタールを塗られ、羽根を付けられ、迫害され、投獄されました。一部の教会指導者は離反しましたが、エドワードは忠実であり続けました。46歳で亡くなるまで、エドワードは勢力を尽くして主に仕えました（教義と聖約 124：19 参照）。



話し合い

エドワード・パートリッジはなぜこれほどの苦難を堪え忍ぶことができたのでしょうか。エドワードの模範は、わたしたちが主に仕えるときにどのような助けとなるでしょう。

「わたしはこの世の物や、時間と感覚にかかわるむなしいものや無意味なものへの愛着を捨て去りました。そして進んで、心を尽くして神を愛し、神に仕え、神の聖なる御霊に導かれてきました。そのためわたしの心は、神にかかわるものを授かりながら、言葉に表せないほどの栄光がわたしの前に現れるまで、絶えず広がり続けています。」¹



注

1. Edward Partridge, letter to Painesville friends and neighbors, *Messenger and Advocate*, Jan. 1835, 61.

恐れずに手を差し伸べ、どのような助けができるかを学んでください。

しかし、子供たちが成長し、必要とされるものが以前ほどはっきり分からなくなってからも、愛にあふれた支援は続きました。愛のある友人、指導者、ミニスタリングブラザーやシスターは、どう助けたらよいのか、トンプソン

トンプソン夫妻がユタ州に引っ越すと、ある夫婦がトンプソン家へのミニスタリングを割り当てられました。「彼らはいつも訪問前に、わたしたちに何が必

トンプソン姉妹がミニスタリングブラザーやシスターに勧めるのは、どのようなことに苦労しているのか、どんな助けが必要なのかを、恐れずにミニスタリング先の両親に質問することです。「とにかくかかわってください。相手のことが分かるにつれて、どのようなミニスタリングがいちばんいいのかが分かるようになってきます。」



障害がある人とその家族へのミニスタリングに関する提案

1. 相手を一人の人として、障害とは切り離して知るようにしましょう。自分について何を知ってもらいたいと思っているか尋ねましょう。どのようなことに関心を持っているでしょうか。
2. 相手と年代代のほかの人たちと話すときと同じように話しましょう。口調や振る舞いを通じて敬意を示すことを忘れないでください。必ず、直接話してください。
3. 障害のある人を見て見ないふりをしないようにしましょう。彼らを認め、迎え入れましょう。どのような貢献や奉仕を望んでいるかについて、その会員や家族と話し合ってください。
4. 障害のある年少の子供については、「デビッドについてもっと教えてください」などと言うことで、家族がその子供について抵抗なく話せることを聞かせてもらえるようになります。
5. 障害のある子供と一緒に時間を過ごすことを申し出ることで、両親はほかの子供に目を向けたり、ほかの必要なことを行ったりする時間を作ることができるようになります。それによって介護者にかかっている負担について理解を深めることもできます。
6. 直接その場にいられない場合でも、助けを与えることはできます。励ましのメモや、親しみを込めた声も、大きな意味を持ちます。誕生日のプレゼントや、そのほかの必要な物をオンラインで購入することもできます。■

役立つリソース

1. 介護者が経験していることについて、より詳しくは、「特別な必要、特別な教訓」『リアホナ』2020年6月号、28－31を参照してください。
2. 3 ネーファイ 22：13 の「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け」（強調付加）という言葉についてよく考えてください。神がそこに「皆」という言葉を入れられたのはなぜだと思いますか。神の子供たちにミニスタリングを行ううえで、そのことはあなたにとってどのような意味を持ちますか。
3. Disability.ChurchofJesusChrist.org には、豊富な情報が 10 の言語で掲載されています。

あらゆる能力のレベルにおける 信仰

福音実践アプリ編集長主幹補佐
マリッサ・ウィディソン

地

上にいる人には、それぞれに異なる強さや弱さ、できることの範囲、そして制限があります。この記事では、医学的に障害と定義される状態で生活している3人の教会員を採り上げます。彼らの善い行いは、とりわけ救い主に従うという点に関して、彼らが確かに能力があること、すなわち、主の王国を築くのを助け、影響を及ぼし、ほかの人たちが倣う模範を示せることを証明しています。

わたしたちのだれもが、自分だけの力強い方法で神の王国を築くのを助けることができます。

愛をもってミニスタリングを行う

フアン・メディナ会長は、支部会長としての2度目の奉仕を行っていますが、今回は前のときとは少し違っています。今回は、自分がミニスタリングをしている相手が見えないのです。「視力は少しずつ失われましたが、主が常に与え続けてくださった奉仕する能力は失いませんでした」と、メディナ会長はメキシコ・ソノラの自宅から語ります。「兄弟姉妹にミニスタリングを行えるのは特権です。」

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの間、メディナ会長は支部の会員一人一人に電話をかけ、彼らがどのように過ごしているか確認しました。これはほかの人たちの助けになっただけでなく、自分のストレスや落ち込みを和らげるのに



フアン・メディナ



も役立ったと言います。「だれかがわたしにミニスタリングを行ってくれたときであろうと、わたしがほかの人にミニスタリングを行っているときであろうと、わたしはミニスタリングを通じて、キリストの真の愛を知るようになりました。」

メディナ会長は、新たにバプテスマを受けた会員にかかわるのが特に好きだと言います。「バプテスマの前後で、彼らの生活に明確な違いが見て取れます」と会長は言います。「愛が彼らを変えるのです。」

自身が直面している困難について尋ねられたとき、メディナ会長は視力障害についてはまったく言及しませんでした。その代わり、会長のコメントは、毎週の聖餐会に姿を見せていない人たちがいるということと、彼らがいなくてどれほど寂しいかを彼らに知ってもらいたいということに集中していました。

「わたしが受けた最大の祝福は、福音を通して人生が変わったということです」と会



長は言います。「目が見えなくなっても、それに変わりはありません。」

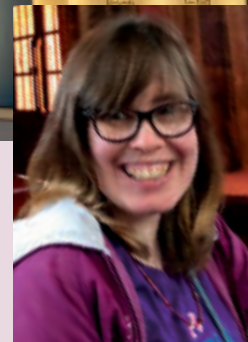
数百人を神殿へ

ヘザー・ニルソンにとって、神殿以上に行きたいと思える場所はそうありません。

「神殿が素晴らしい場所なのは、文字どおり主の家だからです」とヘザーは言います。カリフォルニア州ロサンゼルス神殿は、ヘザーにとって特に大切です。そこは彼女が伝道した場所だからです。ヘザーがそこで行った儀式の多くは、自身の家族のためのものでした。

「祖父には一度も直接会えなかったのですが、神殿で知ることができました」とヘザーは言います。

脳性まひがあると、生活の多くの側面が困難になります。ニルソン姉妹は、この先天性障害のために車を運転したり近所を駆け回ったりできないことについて、気落ちするときもあると言います。しかし、神の計画を信頼することが、絶望よりも力強い希望を彼女にもたらしめています。ニルソン姉妹は、復活について初めて学んだ日のことを鮮明に覚えています。彼女は当時6歳で、その前に末日聖徒の家庭に養子縁組されていました。



ヘザー・ニルソン



「わたしが今できないことも、イエス・キリストの贖いのおかげで、後にできるようになります」と彼女は証します。

一方、ニルソン姉妹は自らの才能を家族歴史活動に用いて、神が人々を救われるのを助け続けています。探求を行い、自分の養家と血縁家系両方の、数百人もの人たちのための儀式を完了するのを助けてきました。つらい日には、祝福師の祝福を読みます。そうすると信仰が活力を取り戻し、現在の試練を永遠の観点から見ることを思い起こすことができます。

ニルソン姉妹は、この記事を読むすべての人に、自分がどれだけ愛されているか知ってほしいと願っていると言います。「わたしが分かち合いたいメッセージを一つ挙げるなら、それは、時に孤独を感じることもあるとしても、あなたは一人ではないということです。天の御父はあなたを愛しておられます。あなたは御父の子供なのです。」

自信と励ましを広める

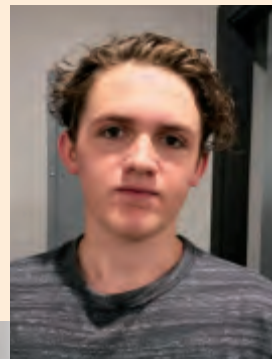
ブリッジャー・ポンスは、聖餐の祝福を手伝うのが楽しみに思えてきた一方で、とても不安に思っていることもありました。それは、聖餐の祈りを読むことと暗記することでした。ブリッジャーにはディスレクシアという、読み書きに困難を覚える学習障害があります。

「うまく読めるよう一生懸命に努力してきたのですが、人前で声に出して読まなければならないときは、まだ緊張します」とブリッジャーは言います。「緊張すると、間違えます。そうすると、さらに緊張してしまいます。」

そこでブリッジャーと彼の母親は、聖餐の祈りを読みやすくしたものを印刷しました。それは、大きな文字で書いてあり、短い語句に区切られていました。多くの練習を重ねた後、ブリッジャーは間違わずに祈りを言うことができました。

「大勢の前で読むという課題の達成は、多くの人々にとっては大したことではないかもしれませんが、わたしにとっては重要なことでした」とブリッジャーは言います。

ブリッジャーの格別の努力は、思いがけない形でほかの人たちに祝福をもたらすことになりました。集会の後、ワードの数人の会員が彼のもとに来て、ブリッジャーのゆっくりとした慎重な言い方は、聖餐の祈りの間、御霊に集中する助けになったと言ってくれたのです。さらに、自



ブリッジャー・ポンス



分になかなかできないことを指導者たちに理解してもらおうと努力する中で、ブリッジャーは、同様の支援を必要としている若い男性たちがほかにもステーキにいるということを知りました。読むのが怖いために、教会に行きたくなくなったり、準備して宣教師になる自信がなえてきたりする人がいたのです。ボンス家では、読むための援助手段をできるかぎりほかの人たちと分かち合うようにしています。

ブリッジャーは、どれだけうまく文字を読めるかはその人の知性のレベルを反映するものではないということを、より多くの人に理解してほしいと言います。また、自分と同じように文字を読むことが困難な人に向けて、次のような励ましの言葉を伝えています。「あなただけではありません。そして、あなたは間違いなく賢いのです。」

ともにシオンを築く

聖文は、すべての人が神から霊的な賜物を与えられていると教えています(教義と聖約 46:11 参照)。これは、あらゆる能力レベルの人に当てはまります。例えば、言葉の話せない兄弟姉妹がわたしたちのためにささげてくれた無言の祈りや、彼らがわたしたちの家に招いてくれたさらなる御霊について、わたしたちが知る日が来るかもしれません。

わたしたちには、ささげるべき能力を何であろうと差し出して、ともにシオンを築き続ける機会があります。すべての人が受け入れられ、認められるときに初めて、教会という家族は完全なものとなるでしょう。■

質問と答え

福音は障害についてどのようなことを教えていますか。

いにしえの時代、イエスは障害のあることは罪の結果ではなく、神からのいかなる罰でもないということを明らかにされました(ヨハネ 9:1-3 参照)。現代の預言者と使徒たちは、教会ではあらゆる能力レベルの人を含む多様な人々が重要であり必要とされていることを強調しています。「わたしたちはあなたにしかない才能と物の見方を必要としています」と、十二使徒定員会のディーター・F・ワークトドルフ長老は述べています。「世界中に様々な個人とグループを持っていることがこの教会の強さなのです。」¹

わたしは指導者です。障害のある人たちを受け入れることについて、どのような提案がありますか。

障害のある人たちのことも、ワードのあらゆる会員とまったく同じように歓迎しましょう。彼らと会い、適切な場合は、その介護者とも会いましょう。彼らと知り合いになり、才能について知り、彼らが教会でどのように奉仕できるかを祈りをもって見極めてください。彼らが必要としていることを知りましょう。彼らがほかの人たちと交流できるよう助け、だれでも受け入れる思いやりのある雰囲気ワードという家族の中に作り出していきましょう。便宜を図るよう求められたら、それを負担として見るのではなく、より多くの天の御父の子供たちに手を差し伸べる方法を学ぶ機会と捉えましょう。一人のために便宜を図った結果として多くの人の生活に祝福が及ぶことが、よくあります。

わたしの子供には障害があります。わたしと家族に役立つ福音のリソースはありますか。

ワードやステーキによっては、障害のある人とその家族のサポートを助ける召しを受けている障害者スペシャリストがいます。それに加えて、教会の資料、靈感あふれるメッセージ、方針の分かりやすい説明など、障害関係の教会リソースが、disability.ChurchofJesusChrist.org にたくさんあり、どなたにもご利用いただけます。

注

1. ディーター・F・ワークトドルフ「ともに集いましょう」『リアホナ』2013年11月号, 23

人を大切にしながら、 自分も大切にする

奥村幸治

わたしは、三世代全員（祖父母、両親、二人の弟、一人のおば）が一つ屋根の下で暮らす家庭で育ちました。おばは知적および情緒的な問題を抱えていて、祖母が世話をしていました。祖母が亡くなった後は、母がおばについての責任をすべて負い、夜も朝も家で世話をしていました。

おばは最終的に、施設に入所することになります。施設は遠く離れていたにもかかわらず、母は定期的に面会に行きました。母の死後、家族によるおばの支援は、おもにわたしが担うことになりました。わたしは、母がどれだけ献身的だったかを理解するようになりました。また、おばを見守ってくれた親切な人たちに、大変感謝するようにもなりました。

介護疲れ

自分の家で経験していたので、わたしは介護者が様々な課題に直面することを理解できるようになりました。文化的な期待、家族の関係、施設が利用できるかなどは、すべて介護者に影響を及ぼす可能性があります。しかし、ほとんどすべての介護者がある時点で直面する課題が一つあります。それは、疲れです。これが特に当てはまるのは、一人の高齢者が別の高齢者の世話をしている場合であり、一般的には、夫婦の一方がもう一方の世話をしている場合です。事実、調査によると、ストレスを抱えている66歳から96歳の介護者は、介護を行っていない人と比べて死亡リスクが63パーセント高いとのことでした。¹

第一と第二の戒め

実際に、第一と第二の大切な戒めを研究することで、わたしたちはキリストのような介護について多くを学べます。

「イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」（マタイ 22：37－39）

主はこの聖句で介護者にとって特に助けになる導きを与えてくださっている、わたしは信じています。まず第一に、主を愛してください。霊的な活力を取り戻すための簡単なことをおろそかにしてはいけません。祈ってください。聖文を読んでください。自分の心の中に、平安を見いだしましょう。天の御父がわたしたちに対して抱いておられる愛の力と強さを感じてください。

「タンクに燃料が入っていないければ、ほかの人に与えることはできません。」—ジェフリー・R・ホランド長老





恐らくあなたはすでに隣人への愛、
この場合は介護する相手への愛で、
満たされていることでしょう。しか
し、あなたは義になかった形で、自分
自身のことも愛しているでしょうか。

お互い様

わたしがカウンセラーとしての経験
と、自分の家庭での経験の両方から
気づいたのは、介護者はあらゆること
を自分でしなければいけないと感じ
ることが多いということです。これは
まったく正しくありません。支援を受
け入れようとししない介護者は、必ずあ
る時点で「燃え尽きて」しまいます。
そのような人は、ほかの人たちに手助
けしてもらい必要があります。家族や
友人、ワードや支部の指導者やミニ
スターリングブラザーやミニスター
リングシスターと相談する必要があります。介
護者を支援したいという意欲を持っ
ている人も、愛する人を祝福し見守り
たいという、介護者の望みを尊重する必
要があります。

以下のような項目を、一緒に話し合
うといいかもしれません。

- 家族からは、どのようなサポート
が得られるか。
- どのようなことが、介護者にと
って数分、さらには1、2時間の休
憩を取る機会になるか。
- どのくらいの頻度の訪問が助け
になるか。それは、どのような
種類の訪問か。

- 神殿に参入したり、教会に行っ
たり、聖餐を受けたりすることで
聖約を新たにする時間を、どの
ようにすれば介護者は見つける
ことができるか。
- だれかと話すだけでも、介護者
にとってどのような益となるか。
- 食物、移動手段、政府プログラム
に関する支援の必要はあるか。

あなたが介護者であるなら、十二使
徒定員会のジェフリー・R・ホランド
長老が述べた、次の励ましの言葉を
覚えておいてください。

「重荷を負い合おうと熱心に努力す
る皆さんのような人にとって、大切なこ
とは、周りから篤く期待を寄せられ、
実際に多くを求められるときに、自分
をもう一度強化し、鍛え直すことです。
疲れやいらだちを少しも感じない、あ
るいは自分を大切にする必要がない
ほど強い人はいないからです。……

世話をする人も、世話をしてもら
う必要があるのです。タンクに燃料が
入っていないければ、ほかの人に与える
ことはできません。」² ■

筆者は日本の山梨県在住です。

さらなるヒントや情報については、「福音ライ
ブラリー」アプリまたは [liahonaChurchofJesus
Christ.org](http://liahonaChurchofJesusChrist.org) で、この記事の長文版を参照してくだ
さい。

注

1. Richard Schulz and Scott R. Beach,
“Caregiving as a Risk Factor for Mortality:
The Caregiver Health Effects Study,” *Journal
of the American Medical Association*, vol.
282, no. 23 (Dec. 15, 1999), 2215–19.
2. ジェフリー・R・ホランド「互いに重荷を負い
合おう」『リアホナ』2018年6月号, 30

考えてみましょう

あなたの知り合いの中に、介護を行っている
人はいますか。今月、その人をどのように強
めることができるでしょうか。

分かち合ってください

あなたは介護を行っていますか。あなたが
信仰と活力を強く保つために、どのようなこ
とが助けになっていますか。あなたの考えや
経験を facebook.com/liahona で分かち
合ってください。

イエス・キリストによって 打ち勝つことについて教える

親愛なる親の皆さん、

今月号にはイエス・キリストとキリストの贖罪、世の思い煩いに打ち勝つこと、自分や友人に障害がある場合のミニスタリングといった、重要なテーマが含まれています。以下に取り上げる記事とその画像を使って、家族との会話を始めましょう。イエス・キリストの回復された福音のこれらの側面やその他の側面について、家族が理解できるように助けてください。

『わたしに従ってきなさい』サポート

25 ページを参照し、回復の初期の忠実な女性であるジェーン・マニング・ジェームズの生涯から短い話を読みましょう。

26 ページからは、家族の毎週の『わたしに従ってきなさい』の学習をサポートする資料が載っています。



写真: GETTY IMAGES

福音についての話し合い

キリストに焦点を当てる

この復活祭の時季に、救い主と、わたしたちのために救い主がささげくださった贖いの犠牲に、よりいっそう心を向けましょう。6 ページの「福音の基本」や、8 ページのジェフリー・R・ホランド長老の記事を用いて、イエス・キリストがあなたや子供たちのためにしてくださったことについて子供たちに教えてください。併せて、キリストの模範、教え、生涯、死、贖罪、復活が、今日あなたや家族にどのような祝福をもたらしているかについて、リストを作成してみてもよいでしょう。救い主とサタンの際立った違いに関する 22 ページの記事を用いて、家族との話し合いを深めてください。

この復活祭の時季にどのようなキリストのような行いを家族ですることができるか、考えてみてください。

世の思い煩いに打ち勝つ

わたしたちは世の思い煩いよりも主の御心に重きを置くべきです。18 ページのハンス・T・ブーム長老による記事を読み、次のような質問について家族で話し合ってください：どのような世の思い煩いが、あなたの妨げになっているか。どうすれば主の御心にもっと重きを置くことができるようになるか。これまでにブーム長老と同じような経験をしたことはあるか。そこから何を学んだか。

障害とミニスタリング

30 ページと 32 ページの記事を読んでください。そこから、あなたの子供たちに最も適していると思われる重要な概念を選び出してください。家族の中に障害のある人がいる場合は、その人にできる善い行いに注目してください。障害のある人にミニスタリングを行っている場合は、これらの原則によってその人を助ける方法がどのように変わってくるかについて話し合ってください。

家族で楽しく学ぶ

結束する

教義と聖約 38 : 24 – 31

教義と聖約 38 : 27 で、救い主は、「わたしはあなたがたに言う。一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない」と言っておられます。「敵の力から逃れ」られるように（教義と聖約 38 : 31）、一つになりましょう。

1. 部屋の中央に集まって立ちます。
2. 一人を選んで、その集まりの中を通り抜けてもらいます。
3. 同じことを繰り返します。ただし、今度はいっせいに立ち、可能であれば腕を組み合わせたり手をつないだりします。

話し合い：より強く近い関係を作ることで、外部の影響からの守りがどのように強まるでしょうか。結束を強めることによって、わたしたちはどのように守られるでしょうか。

アイデアの提供：ブレンダ・スレード

今月号の『For the Strength of Youth — 青少年の強さのために』より

「わたしがどのようにして失敗に失敗したか」

失敗したと思ったときは、落ち込んでしまいがちです。しかし、わたしたちの計画に主に関与していただいているとき、失敗などあり得ません。この記事が家族と分かち合い、成功を測る様々な尺度について話し合いましょう。

教会歴史に登場する人々

1830年に家と家族を離れてオハイオの教会員たちに加わった、恐れを知らないフィービー・カーターについて一緒に学びましょう。

質疑応答

悪い影響が周囲にある中でどうやって思いを清く保つか、10代の子供たちと意見交換をしましょう。また、この記事には奉献の律法と、この律法がわたしたち一人一人に個人的にどのように影響するかについての質問も含まれています。

「絵に描いたような一致」

この記事は、わたしたち一人一人が唯一無二の存在であることや、どのようにして一致と愛の姿勢でともに集まることができるかについて教えています。



今月号の『フレンド』より

『わたしに従ってきなさい』に役立つ資料

年少の読者に向けた今月の聖文の物語を読み、この神権時代における最初の宣教師の何人かについて学びましょう。

復活祭のほんとうの意味

弟を亡くしたイザベラがどのように慰めを見いだしたかについて読んでください。

南アフリカの開拓者

市民暴動の時期に敵意よりも愛を選ん

だコミュニティのリーダー、園芸家、そして忠実な改宗者である、ジュリア・マビンベラについて学びましょう。

奉仕する勇氣

わたしたちは皆、神の子供であるという証をブラジル出身の少年が得るうえで、奉仕がどのように役立ったかについて読んでください。また、子供たちが今月の「ヘルピングハンズチャレンジ」を行えるように助けましょう！

教会れきしカード

今月のカードを使って、ジェーン・マニング・ジェームズとパーリー・P・ブラット、そして彼らが回復において果たした役割について子供たちに教えてください。



今日の変化する世における忠実な子育て

社会が子供たちにどのようなことを教えようとも、
あなたは子供たちに強力な影響を及ぼすことができます。

デニス・ダンロップ

わたし自身の子供時代は、クリスチャンの大人が子供の人生に与えられる強力な影響についての証です。母はわたしが4歳のときに亡くなったので、祖母がわたしやきょうだいの世話を手伝ってくれました。祖母は救世軍教会に属しており、わたしたちに祈ること、敵を愛すること、人に優しく接することを教えてくれました。その大事な数年間における祖母の導きは、わたしにとって、将来行う数々の選択の基礎になりました。

わたしが母親、そして保育士になってから、40年以上がたちます。その間に、社会の価値観や規範はますます救い主の教えに反するものとなっていきました。本や音楽から日々の言葉遣いまで、あらゆるものが悪に影響されているように思われます。しかし、圧倒される思いを抱く必要はありません。この現在の文化的風潮の中で子供たちを教え、守り、強める方法を知ることができるよう、主がわたしたちを導いてくださいます。ここでは、わたしが学んできたことの中から、皆さんの家庭でも役立ちそうな具体的な教訓を3つ紹介します。

1. ルールだけでなく関係に集中する

モデルとなる「理想の家族」を知らずに育ったわたしは、子供を育てながら、いつも自分自身と自分の能力を疑っていました。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老による次の言葉は、わたしに慰めを与えてくれました。「皆さんが……神を愛し、自ら福音に従って生活するように努めるなら、……自分にできるかぎりの最上の親になるべく全力を尽くすなら、皆さんは人間としてなし得ること、神がなすように期待されることはすべて行えるでしょう。」¹ 最善を尽くすには、救い主の助けが必要です。そして、もし親が救い主に頼らなければならない時代というものがあるとするなら、今こそその時です。

多くのルールについて気かけ、子供たちがそれを完全に守るかどうか心配するのではなく、子供たちとの関係および救い主との関係を築くことに集中しましょう。わたしたちの愛する預言者ラッセル・M・ネルソン大管長は、このことについて次のように言っています。「子供を支配しようとするのではなく、耳を傾け、福音を学べる

ように助け、靈感を与え、永遠の命に導くことです。皆さんは神の子供たちの世話をするように委ねられた神の代理人です。子供を教え、説得するときに、神の御霊の影響力を心に保ってください。」² わたしの経験から言っても、この助言は真実であると感じます。

2. 一緒に楽しむ

わたしたちが子供たちとの関係を築くために行ったことの一つとして、家族の活動が挙げられます。それは多くの場合、散歩に行くとか、浜辺でフィッシュアンドチップス〔訳注—イギリスなどで人気のファストフード、国民食。白身魚のフライにポテトフライを添えたもの〕を食べるといった、ささやかな時間でした。わたしたちが子供との時間をほんとうに愛していることを、子供たちは知っていました。

子供たちが自分の問題について気兼ねなく話せるよう、わたしたちは子供たちの言うことに耳を傾けることに努めました。家族の問題が生じたときには、わたしたちは子供たちと問題について話し合う機会を設け、子供たちの返答に耳を傾け、一緒に結論を導き出すように努めました。

3. 福音生活の模範を示す

子供たちが小さいころ、わたしは教会員ではありませんでした。バプテスマを受ける決意をするまで18年かかったのです。しかし、夫は会員でした。夫は、子供たちが家族の祈り、聖文の研究、家庭の夕べを通じて天の御父との関係を築けるよう助けました。わたしたちは完璧からは程遠かつ

たとえ理想的な家庭環境でなくても、子供たちを導くことはできます。自分には無理だと諦めないでください。

親はだれしも、子供が自分自身で行う選択を信頼して、いずれは子供を自立させなければなりません。願わくは、そのときに預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を、確信を持って口にしたいものです。「わたしは人々に正しい原則を教えて、自らを治めさせます。」³ わたしたちを取り巻く世界でどのようなことが教えられていようと、わたしたちは今日から、子供たちにとって福音の導きの源になることができます。

注

1. ジェフリー・R・ホランド「彼女は母親だからさ」『聖徒の道』1997年7月号, 41
2. ラッセル・M・ネルソン「救いと昇栄」『リアホナ』2008年5月号, 9
3. 『歴代大管長の教えージョセフ・スミス』284





愛する人々が教会を離れるときに 強くあり続ける

弟が教会を離れると決めたとき、わたしはショックを受けました。
しかし、愛のある関係続ける方法と、
自身の証を強く保つ方法を見いだしました。

フレデリック・ヘグナー・オドゴール

19 歳の弟がもう教会に行きたくないと思っていることを両親から聞かされた当時、わたしは伝道に出て以来家に長い間戻っていませんでした。わたしはショックを受けました。弟が教会を離れるなど、まったく想像したことはありませんでした。

伝道の間、弟に福音のテーマについてメールを書き送り、伝道に出たいと思うかと尋ねたことを覚えています。弟はいつも分からないと言っていました。それらのメールについて振り返ったとき、わたしは弟が福音について確信を持っていないという兆候があったことに気づきました。

わたしはほかにできることがあったのではないかと考え始めました。また、なぜ今このときに、こんなことが起こっているのだろーと思いました。わたしが動揺したのは、わたしはほんとうに彼自身のために証を持ってほしいと望んでいましたが、もしかすると自分自身のためにも望んでいたのかもしれないと気づいたからです。わたしは弟に、自分と一緒に教会に出席し、伝道に出てほしいと望んでいました。そうすれば伝道の経験について一緒に語り合えるからです。そのため、弟がそれらのことを何一つ望んでいないと考えると、つらく感じました。

わたしは伝道で2年間、宗教や信じていることについて人々と話していたので、これらのことについて自分の弟と話すのがなぜこんなに難しく感じるのか分かりませんでした。しかし、そう感じたのです。このことにより、わたしの信仰はこれまでとは異なる形で試されました。伝道における試しは、熱心に働くこと、毎日を楽しむこと、そしてすべてがきつとうまく行くという信仰を持つことでした。しかし弟に対しては、まったく違うように感じられました。

わたしは伝道で、靈感に基づく質問をすることと、理解力を求めることを学びました。しかし、伝道で教えてきた人たちのことを前から知っていたわけではありません。彼らとの関係は、彼らを教え、キリストに近づけるよう助けることに限られていました。弟のことは、生まれてからずっと知っていて、弟がキリストに近づけるよう助けるという関係を持ったことは一度もありませんでした。

ある日、わたしは弟に教会について尋ねました。そのときの会話が思い出されます。弟は、教会の教えの一部について証を持っていないと言いました。これが伝道中に会った人だったなら、わたしは、まだその時点では準備ができていないのだ、たぶん後で別の宣教師がこの人を教えることになるだろうと、敬意と受容の心をもっ

て対応したことでしょう。しかし、弟への愛のゆえに、わたしにはそれと同じレベルの理解を示すことは容易ではありませんでした。とにかく自分の知っていることを弟にも知ってもらいたかったですし、自分が感じているのと同じ御霊や神からの愛を弟にも感じてほしかったのです。弟が福音を選ばないということを受け入れるのはわたしにとって難しいことでした。

その状況に慣れるまでには少々時間がかかりましたが、伝道から帰還して2年近くたった今でも、わたしと弟との関係は良好です。福音についての会話はあまりありませんが、ほかのことについては弟と話しています。二人で福音を共有できたらという願いは今もあります。わたしたちはほかの多くのことを共有しています。今でも何かのために一緒に出かけたりします。弟はほんとうに善良な人なので、わたしはありのままの弟を愛しています。

信仰や礼拝の小さな行いが、 あなたの証に 力強い影響を与えます。

わたしが学んだこと

この時期を通じて、わたしは以下のことを学びました。愛する人が教会を離れることについて悩んでいる方には助けになるかもしれません。愛する人と良好な関係を維持するのに役立つだけでなく、あなたにとって霊的な試練であるかもしれない時期に、あなたの証を強く保つうえでも助けになるはずです。

- すべての人に選択の自由があり、だれかが教会を離れてもあなたのせいではないことを覚えていてください。
- その人との関係を強めます。常に愛を示してください。その人と教会との関係によって、あなたとその人の関係が影響を受けることがないように努めてください。
- 双方が楽しめることを行って、一緒に時間を過ごします。
- あなたはほかの人たちに代わって選択を行うことはできませんが、模範となって彼らをサポートすることはできます。
- この状況について祈ります。天の御父は御自分の子供たちの

ことを御存じなので、あなたがこの状況を乗り越えられるよう助ける方法を最もよく御存じであるということをご信じてください。

- 聖文を調べます。わたしは聖文に記されている数々の例に大いに助けられ、自分の状況がかなり一般的であることにも気づきました。聖文の中でさえも、多くの家庭に、教会を信じていなかったり、さらには教会に背いたりした人が一人または複数いました。それでもなお、その家族は彼らに愛を示しました。
- あなたがどう感じているかについて、家族の中で福音に活発な人たちに率直に話します。家族の人たちも同様の思いを抱いているかもしれず、あなたと同じく、自分の思いを分かち合う相手が必要としているかもしれません。互いに助け合ってください。
- 最後に、あなた自身の霊性をないがしろにははいけません。

証を強く保つ

親しい人が教会を離れるとき、あなた自身の信仰が試されるかもしれません。あなたが福音生活においてその人を尊敬していた場合はなおさらです。あなたは自分の証の何らかの部分について疑い始めるかもしれません。わたしも弟が離れたとき、幾つかの疑問に少々悩まされました。しかし、だからこそ、自分自身と自分の証に気を配ることが重要です。あなたが自身の証を築き、維持するなら、ほかの人たちが行う選択について恐れる必要はありません。

わたしたちはだれでも信仰を強めようと努めないかぎり、それを弱めてしまいやすいということを覚えておいてください。ある日に信仰の強かった人が次の日に教会を離れるということは、ほとんどありません。しかし、信仰を強めるために毎日行うべき小さなことをし忘れると、気づくこともないまま、いつの間にか福音から遠ざかってしまうかもしれません。聖文を研究すること、毎日祈ること、信仰と礼拝の小さな行いをすべて実行することなど、基本に立ち返ることが、あなたの証に力強い影響を及ぼします。

何より、あなたの愛する人が教会を離れることによってあなた自身の証が影響を受け、あなたの思いに疑いや疑問が生じているなら、「自分の信仰について疑いを持つ前に、その疑いを疑って〔ください〕」¹、そして「すでに知っていることに固くしがみついて〔ください〕」²という、賢明な助言を覚えておいてください。

常に主の声を聞くよう努める

ヤングアダルトにとって、自分の向かいたい場所や行いたい事柄を知るなど、自分の人生に対して計画を持つことは重要だと思います。



その人との関係を
強めます。常に愛を
示してください。

しかし、わたしたちはよく考えて、そうした計画と自分の日々の生活に主を含める必要があります。毎日ほかに行わなければいけないことが非常に多くある場合、そのようにするのは難しいことがあります。わたしたちはいつでも天の御父とイエス・キリストのために時間を作ることができます。そして、そのように行えば、わたしたちは必ず人生の嵐に耐えることができます。ローマ人への手紙第8章31節の聖句が思い浮かびます。「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。」

ラッセル・M・ネルソン大管長は、御霊がなければ、そして自分自身の人生のための個人の啓示を受けなければ、わたしたちはこれから先、霊的に生き残ることはできないと教えています。³ わたしは個人の啓示を受けることの重要性は常に知っていましたが、常に最善を尽くしてそれを求めてきたわけではありませんでした。今以上に、日々の生活に御霊を招くことができると自覚しています。

個人の啓示はその言葉どおり、個人的なものです。そして、わたしたちは主の声と主の手を生活の中で認識できるよう主に助けを求めることで、主がどのように語りかけてくださるか

を学べるようになります。主は最高の教師であられます。

わたしたちは、特に信仰を強めることや福音に従って生活することに関して、ほかの人の行動を常にコントロールすることはできません。しかし、たとえこの世で最も愛する人たちが信仰について問題を抱えている場合でも、わたしたちが神を優先し、御心に従い、神の声を聞こうと努めるなら、必ず祝福されて答えを受け、強い証を授かり、神に従い続けるのに必要な霊的な啓示を受けるでしょう。■



フレデリック・ヘグナー・オドゴールは22歳で、デンマークのオールボー在住です。フレデリックは、イングランド・バーミンガム伝道部で伝道しました。現在は医学を学んでおり、科学と、問題を解くことを愛しています。楽しみは家族と時間を過ごすこと、そして教会に行くことです。

注

1. ディーター・F・ワークトドルフ「ともに集いましょう」『リアホナ』2013年11月号, 23
2. ジェフリー・R・ホランド「主よ、信じます」『リアホナ』2013年5月号, 94
3. ラッセル・M・ネルソン「教会のための啓示、わたしたちの人生のための啓示」『リアホナ』2018年5月号, 96 参照

伝道活動に関する 靈感に基づく変更が わたしの家族に祝福をもたらしました

宣教師が自分の家族と連絡を取ることにする変更が、福音の真理を母と分かち合うための助けになりました。

ララ・アグスティーナ・チャベス

わたしは教会員になって8年になります。父と二人の妹も会員です。会員になって以来、わたしは天の御父がわたしの人生や家族のために用意してくださったすばらしい祝福を目にしてきました。福音はわたしの人生をほんとうに祝福してくれてきましたし、求めていた幸福を見いだす助けになってきました。

最初にモルモン書を読み始めたとき、わたしの心に訴えかけてきたのは、リーハイの命の木の示現に関する話でした（1ニーファイ8：11 参照）。わたしはそれに共感できました。わたしも、家族や愛する人たちの全員に木の実を味わってもらい、人生において神の愛を感じてもらいたかったからです。

こうした理由から、わたしは専任宣教師になるために自らを備え、グアテマラ・グアテマラシティー伝道部で働く割り当てを受けました。

伝道の間、とても多くの人たちが福音を通して良い方向に変わっていくのを

見ることができました。また、それによってわたしの心は毎日喜びで満たされました。しかし、同僚と一緒に家族を教えるときはいつも、自分自身の家族のこと、とりわけ、教会員ではない母のことが頭をよぎりました。毎週の準備の日に、わたしはメールで、母に宣教師に会うよう勧めることに努めました。母が福音を受け入れるよう、天の御父が母の心を備えてくださるよう祈りました。

靈感に基づく機会

宣教師が自分の家族と連絡を取ることにに関して靈感に基づく変更がなされたとき¹、わたしはまだ伝道中でした。この知らせを最初に聞いたとき、これは福音について母にもっと学ぶよう勧めるための機会であると、御霊が知らせてくれました。わたしはその変更と、そのように感じることを大変うれしく思いました。主はわたしが何を母と分かち合うことを望んでおられるのか、それが分かるよう助けてくださいと、その週の間、わたしは主に尋ね求めました。

準備の日になり、パソコンの画面越しに母を見たとき、わたしは二人で祈るべきだという強い印象を受けました。その気持ちを伝え、母は同意してくれました。ビデオ通話の中で、わたしは自分が宣教師として分かち合おうとしているおもなメッセージを母に説明しました。イエス・キリストの福音が回復されたというメッセージ



です。それが真実であることを知っていると、わたしは心を尽くして証しました。さらにわたしは母に、これらのことについて自分で知るために祈って神に尋ねるよう勧めました。最後に母が祈り、わたしたちは会話を終えました。二人とも御霊を強く感じ、心を貫かれました。通話の後、わたしは母の地域の宣教師にリフェローを送りました。

翌週の間、また母と話をするのを心待ちにしました。最初のときと同じように、わたしたちはビデオ通話を祈りで始めました。それから、わたしは母と何を分かち合うべきか知ろうと、御霊に耳を傾けました。わたしたちは、それを何週間か続けました。ついに、驚くべきことに、母は宣教師と集会を持つようになりました。そして、わたしは母の目に新たな輝きがあるのに気がつくしました。

天の御父はわたしたちを通して奇跡を行うことがおできになる

帰還してから、わたしは母の宣教師とのレッスンに同席しました。あるレッスンで、母は顔に笑みを浮かべて、主と聖約を交わしたいという望みを口にしました。福音は真実であるという答えを母がどのようにして受けたかを聞いて、わたしは驚きました。またもや御霊が部屋を満たし、わたしたちが真理を目の当たりにしているということを、わたしたちの心に証しました。

そして、わたしは帰還してからわずか数週間のうちに、自分の伝道における最大の奇跡の一つを目の当たりにしました。母がバプテスマの水に入り、天の御父と聖約を交わしたのです。

母が水の中に入るのを見たとき、わたしの頬を涙がつかいました。その後、母を抱き締めたとき、わたしたち二人には多くの感情が押し寄せていました。しかし、おもに感じていたのは、わたしたちに対する神の愛でした。母はわたしの目を見て、こう言いました。「神様がわたしを抱き締めて、歓迎してくださったような気がしたわ。神様がわたしを待っていてくださったことが分かるわ。」

十二使徒定員会のディーター・F・ワークトドルフ長老は次のように教えています。時に、伝道活動を達成できるのは、「人々を改心させるのはあなたの仕事ではないことを理解〔したときです〕。それは聖霊の役割です。あなたの役割は自分の心の中にあることを伝え、自分が信じていることに従って生活することです。……

この道に従ってください。そうすれば神はあなたを通して奇跡を行い、御自分の貴い子供たちを祝福されます。」²

母の言葉を聞いたとき、わたしの証はさらに強められました。またそのとき、天の御父はわたしたちの祈りを聞いてくださり、木の実をほかの人たち、とりわけ自分の家族と分かち合えるよう助けてくださるということが、心の底から分かりました。■



ララ・アグスティーナ・チャベスは22歳で、アルゼンチンのブエノスアイレス出身です。趣味は、音楽を聞くこと、ピアノを弾くこと、そして野外で過ごすことです。お気に入りの場所である神殿を訪れることを、ほんとうに楽しみにしています。

注

1. See "Missionaries Now Have More Options to Communicate with Families," Feb. 15, 2019, newsroom.ChurchofJesusChrist.org.

2. ディーター・F・ワークトドルフ「伝道活動—心の中にあることを伝える」『リッパホナ』2019年5月号, 17

もっとあなたに！

「福音ライブラリー」(ChurchofJesusChrist.org またはモバイルアプリ内)にある『リアホナ』4月号のデジタル版では、もっとたくさんのヤングアダルト向けの記事が読めます。

今月は、愛する人が教会を離れたときのこと、自分と信仰の異なる人たちを愛すること、自分が家族で唯一の会員であるときに信仰を強く保つことについての記事がさらに掲載されています。

デジタル記事

家族の中で教会員はあなただけですか？ あなただけではありません。

兄弟が教会を離れたとき、わたしの心はどのように変わったか

アーニャ・デーグ・マティーセン (アイスランド、ハフナルフィヨルズウル)

YAウィークリー

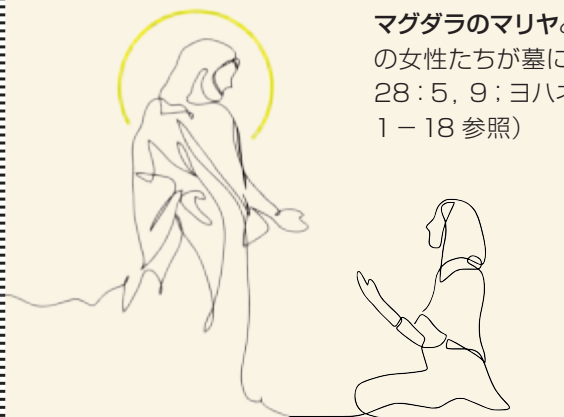
「福音ライブラリー」アプリの「ヤングアダルト」の項にあるYAウィークリーにも、毎週、新しい記事が掲載されます。



主はよみがえられた： 復活したキリストにまみえた人、 これからまみえる人

ここに挙げるのは、主が死に打ち勝たれた後に、主にまみえた人たちの一部です。復活した救い主にまみえた人たちがいると知ること、主を信じるあなたの信仰はどのように強められるでしょうか。あなたはどのような霊的な経験を通して、救い主が実際に復活されたと確信しましたか。

紀元 33 年



マグダラのマリヤとそのほかの女性たちが墓にて（マタイ 28：5, 9；ヨハネ 20：1－18 参照）

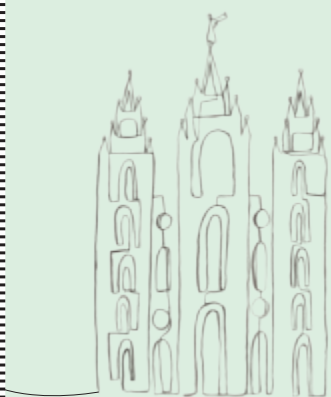
弟子たちがガリラヤにて（ヨハネ 20：24－29 参照）

500 人以上の人々が同時に（1 コリント 15：6 参照）

約 2,500 人のニーファイ人がバウンティフルにある神殿にて（3 ニーファイ 11：10－17 参照）

イスラエルの行方の知れない十部族（3 ニーファイ 17：4 参照）

現代（1820 年代以降）



1898 年 9 月 2 日
ロレンゾ・スノー大管長が
ソルトレーク神殿にて

1820 年春

ジョセフ・スミスがニューヨーク州にて（ジョセフ・スミス—歴史 1：16－20 参照）

1832 年 2 月 16 日

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンがオハイオ州ハイラムにて（教義と聖約 76：19－24 参照）

1836 年 4 月 3 日

ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリがカートランド神殿にて（教義と聖約 110：1－10 参照）

将来



再臨のとき、全世界にて（教義と聖約 101：23 参照）

アダム・オンダイ・アーマンにいる人々（教義と聖約 27：5－14；116：1 参照）

アメリカの新エルサレムの人々（教義と聖約 45：66－67 参照）

エルサレムのユダヤ人（教義と聖約 45：48, 51－53 参照）

ヤングアダルト

教会を離れる愛する人々への対処

42



救い主の愛

救い主と悪魔を対比する

22

障害のある会員

神の王国を築く

32

介護をしている人

支援を受け入れる

36

親

子供たちに良い
影響を与える方法

40

